第23回全国バズ学習研究大会

研　究　紀　要

研究主題

相互作用を生かし，参加度を高める学習指導

―課題と評価の研究を通して―

昭和63年10月7日㈮・8日㈯

愛知県春日井市立中部中学校

はじめに

バズ学習を導入して4年目になるが，依然としてまだ入口で右往左往している状態だといった方がよい。しかしそれは，すくなくとも一つの方向に対しての焦燥であることにはまちがいない。こうした中にあって，これからどのような態度や方策で臨むべきか，そのことはまた私たちの現職教育のすべてであり，学校態勢そのものでもあろう。

教育は社会化への過程であるといわれるが，すべてのことが多様化複雑化している中で，どうかすると私たちはこの原点を忘れてしまいそうになることがある。時あたかも，中教審・臨教審・教課審などの答申が出そろい，さまざまな要望や期待をこめた論議の中で，教育改革に向けての施策が次々とうち出され，教育内容や教育方法もまた検討が進められている。人間化を基調にしたこれらの動きの中で，特に重視すべき視点として，自己教育力の育成や基礎・基本の徹底が示され，児童生徒がより自主的・主体的に諸活動に取り組めるよう指導配慮することが求められている。これらに正対する方途としてもバズ学習実践の意味があろう。

ひとつのビジョンのもと，それを柱にしながら学校教育を進めることの重要性はしばしば強調されるところであるが，大規模校なるが故にいっそうその必然性をかきたてた。すべての教師やすべての生徒を共通の土俵に載せるためにはどうするか，教師にも生徒にも共通する理論や方法は何が適切か，を模策する中で，バズ学習導入を思い立ったことも本当である。

態勢といい体制ともいうが，それらは単なる意気ごみや組織図だけではないはずである。私は，それは学校中が同じ方向を向いて動く具体的な姿なのだろうと常々思っているが，頭で考えるほど容易ではない。

大会を開くにあたり，格別御指導御配慮を賜った皆様方に対し，厚く御礼申し上げると共に，未熟な私たちの実践についてきたんのない御しっ正を賜るよう，心からお願いする次第である。

春日井市立中部中学校長　荻　原　克　巳

目　　次

はじめに　　学校長

Ⅰ　バズ学習の理論的基礎
1. バズ学習の基本的な三つの性格 …… 1
(1) 学力と人間関係を高める指導の統合 …… 1
(2) 個人的学習と集団相互作用の過程や原理を包括した指導 …… 1
(3) 学級集団の成長と個人の発達をはかる指導の統合 …… 2
2. バズ学習の基本的な三つの原理 …… 2
(1) 学習活動への積極的な参加 …… 2
(2) 理解の促進と拡大 …… 2
(3) 態度の変化 …… 3
Ⅱ　研究主題と研究主題設定の理由，研究の方法
1. 研究主題 …… 4
2. 研究主題設定の理由 …… 4
3. 研究の方法 …… 5
4. 研究の全体構想 …… 6
5. 研究組織と役割 …… 7
Ⅲ　研究の経過
1. 昭和60年度の取り組み …… 8
2. 昭和61年度の取り組み …… 9
3. 昭和62年度からの取り組み …… 11
Ⅳ　研究内容
1. 一人ひとりが生き生きと活動する授業を目指して …… 14
(1) 目標を持ち，積極的に参加する学習指導 …… 14
(2) 学習課題と評価の研究 …… 19
(3) 学習指導法改善への取り組み …… 26
2. 生徒の自主的・自律的な特別活動を目指して …… 30
(1) 短学活の充実 …… 30
(2) 学級経営の充実 …… 34
(3) 意欲的な美化・緑化活動やクラブ活動の工夫 …… 38
(4) 自主的な生徒会活動の工夫 …… 42
(5) 自主的に取り組む旅行的行事の工夫 …… 46
3. 道徳的心情や実践意欲を高める指導を目指して …… 51
(1) 基本的な考え方 …… 51
(2) 全体指導計画 …… 52
(3) 相互作用を生かした指導の実際 …… 53
Ⅴ　まとめと今後の課題 …… 56
Ⅵ　バズ学習の困難点や問題点の解明
1. 授業の進度が遅れるのではないか …… 57
2. 優秀生の学力は足踏み状態になるのではないか …… 57
3. 依頼心が助長され，個人思考が深まらないのではないか …… 58
4. むだ話が多くなったり，騒がしくなりがちだがどうしたらよいか …… 58
【研究同人】 …… 60

【学校要覧】

Ⅰ　バズ学習の理論的基礎

人間は個性的な存在であると共に，社会的な存在である。だから，教育を進めるにあたっては，個を高める指導と集団を高める指導の統合を，より意図していくことが必要であろう。そして，学力と人間関係の統合ということばで代表されるように，付随学習とか同時学習とかいわれる学習の原理や機能について，より意識的に理解が促進され，あらゆる教育活動の中で実践が意図されるべきであろう。

バズ学習の理論は，教育をより統合的にとらえていこうとする一つの方法論でもある。

1.　バズ学習の基本的な三つの性格

(1)　学力と人間関係を高める指導の統合

この両者はややもすると互いに相容れないことのように考えられて，別々の分野で指導されがちなところが多分にあり，一方が重視されると，他方は自然に軽んぜられる結果となりやすかった。バズ学習では，教科指導の分野における人間関係の意義を積極的に認め，学級内の望ましい人間関係を育てることによって，教科学習それ自身の効果を高めることは無論のこと，生活指導の分野に対してもその重要な一翼を担っていこうとする。

(2)　個人的学習と集団相互作用の過程や原理を包括した指導

学習に対する動機づけ，一般化の学習（関係づける学習），学習における練習，学習に対するレディネス，同時（付随）学習等は，集団の中の多様な相互作用の過程の中でこそ可能であり，ひとりひとりの生徒を学級という一つの集団のメンバーとすることによって，生徒にさまざまな学習の機会を与えることもできる。そうなるためには，自由なコミニ

ュケーションが活発に行われ，全員が共通の価値体系をもち，常に協力的な努力への調整がなされるなど，集団の成長が期せられねばならない。バズ学習ではそのことに着目し，その具現を図っていこうとする。

(3) 学級集団の成長と個人の発達をはかる指導の統合

学級が学習のために望ましい集団として成長していく過程は，とりもなおさず，その学級に所属するひとりひとりの生徒が調和的・統合的に発達していく過程の重要な一面を示すものである。バズ学習では「よい個人はよい集団によってのみつくられ，よい集団はよい個人によってのみつくられる」という意味において，個人と集団の関係を統一的に理解し，教育態勢の確立を図ろうとする。

2. バズ学習の基本的な三つの原理

(1) 学習活動への積極的な参加

学習場面における密度の高い相互作用を効果的に指導することによって，生徒たちは，参加・承認・成就などの欲求を満足し，あるいは変化し，発展し，学習活動への魅力を高め，積極的な参加の態度を示すようになるであろう。

(2) 理解の促進と拡大

たとえば，ある学習課題が与えられた場合，これを分団によって協同して解決にあたると，お互いに意見や考えを出し合うので，だれかが正解に達することが比較的容易に実現できる。分団の中のだれかが正解に達することができれば，それを他の生徒に拡大し，分団全員が正解に達することができる。もちろん，分団から分団への拡大によって，学級全員の学習達成ということが最終的に期待される。

(3) 態度の変化

期待される生徒たちの態度の変化の中には，学習に対する態度，教師や仲間に対する態度，協調性・積極性・自主性などのような社会的態度がある。これらの態度の発達が，学習場面における効果的な相互作用の結果としてもたらされるものであって，同時学習の原理にももとずいている。

集団的方法による指導が，個々の生徒の知識や理解や技能などの面と共に，感情的・態度的な面の効果を期待し，そして期待どおりの成果をじゅうぶんあげ得ることは，これまでの多くの研究によって明らかにされている。

バズ学習の目ざす学習は，分団で行う活動や学習にすべてのねらいがあるのではなく，その重点は，常に学級全体の活動や学習，個人の活動や学習に指向されているのである。前述のバズ学習の三つの性格や，この三つの原理は，いずれも相互に密接に関連し合っているので，切り離して考えることはできない。そしてこれらは，私たちの実践的研究に対する仮説でもある。

Ⅱ　研究主題と研究主題設定の理由，研究の方法

1.　研究主題

相互作用を生かし，参加度を高める学習指導
課題と評価の研究を通して

2.　研究主題設定の理由

「教育は，社会化への過程である」と言われる。したがって，教師の仕事は，「社会生活に適応していける人間の育成」であり，さらに言えば，「自己の力で自己の道を切り開くことのできる人間の育成」であると言ってよい。そういう人間を育てるために私たち教師が，無自覚であっていいはずがない。そこで，私たちは，「教育とはなにか」「学力とはなにか」を問いながら，その方途を「バズ学習」の理論や方法に求めることとした。

本校では，従来より教師主導型の一斉授業が主流であり，それなりの効果はあげていた。しかし，生徒一人ひとりが本当に主体的・積極的・協同的に学習しているかという点では不十分であった。そこで，このことを反省し，問題に対して自分の考えを持ち，それを追求する学習の過程を特に大切にしていきたいと考えた。

もう一つは，近年生徒たちに見る社会性の著しい欠如である。個に埋没し利己的になり，他を思いやる心を忘れたり，自己主張が強く集団からはみだしてしまう事実も多く見られる。

すなわち個と個，個と集団の相互関係が希薄になっていることであり，こうした人間関係を親密化させることが急がれる課題であった。

そこで，学級内の望ましい人間関係の育成が教育活動の基盤であることを認識し，「よい個人はよい集団を作り，よい集団はよい個人を作る」と言われるように，お互いに人間性を磨き合うことが社会性の育成につながるものと考えた。

さらに，教師と生徒がお互いに持ち合わせている可能性と創造性を温か

い人間関係の中で相互活動を基盤に「磨き合い，響き合う」ことにより，生きた学校作りができることを確信し，研究主題を設定した。

3. 研究の方法

昭和60年度当初，研究の出発にあたり，共通の土俵に職員全員がのり，共同研究していくことを確認した。

教科部会・道徳部会・特殊教育部会・生徒指導部会等での実践や成果は常に公開し，時には外部の方々に指導を受けることにも心がけた。

しかし，研究では，全体が共通理解するまでにかなりの時間がかかることや教師集団がばらばらだったら到底成果も期待できないことを過去の体験の中でつくづく感じていることであり，1年毎の成果がわずかでも全員の一歩前進を大切に研究を進めた。

研究の全体計画はバズ推進委員会があたり，研究骨子の原案作成と方向づけを行い，バズ推進の四部会(教科指導部・特別活動部・道徳研究部・資料検討部)で具体的な方針を出し，学年部会・教科部会・道徳部会・学指学活部会や生徒会活動・クラブ活動・学校行事等で具現化を図ってきた。

検証された結果については，バズ推進委員会で集約・検討し，課題を明確にして実践の継続をするように配慮してきた。

現実には，日常の教育活動の遂行に精一杯で余裕のない日々であるが，教師が率先して研究する意欲や積み重ねが，実は子供の姿を変えると確信して次の基本方針を持って研究を進めた。

(1) 月1回校内現職教育(全体会)を設定し，研究に関して共通理解をはかり，共同研究の基本を確認する。

(2) 随時バズ推進委員会を開催し，研究内容や推進上の問題を検討し，研究の評価活動をする。時には，バズ推進部会を設定し具体化を図る。

(3) 授業研究を全職員年1回は実施し，研究主題にせまる教科研究の推進を図る。道徳や学指・学活の授業公開と短学活の公開を定期的に実施し，指導力量の向上に努める。

(4) 学校訪問における指導主事の指導・助言や外部講師の指導については，

校内現職教育で確認し，研究の資料として活用する。

(5) 研究先進校の視察や発表会への参加の成果を研究に役立てる。

4. 研究の全体

研究の全体構想

学習指導要領
県学校教育指導の重点
市学校教育の重点

校訓	健康明朗　知性錬磨　協力奉仕
教育目標	・生徒にとってうるおいと喜びのある学校の実現 ・実践力のある生徒の育成 ・生徒に自己実現の場を与える教育活動の実践 ・人間関係を基盤にした活力ある学校の実現

生徒の実態
・素直で明るく，基本的生活習慣は，ほぼ身についている。 ・まじめで，向上心は比較的高い。 ・精神的なねばり強さにやや欠ける。 ・自主性・創造性にやや乏しい。 ・他を思いやる心にやや欠ける。

具体化のねらい

・ひたむきな心で
- ・たくましく生きぬく力を身につけよう。
- ・自ら学び，互いに磨き合い，高め合おう。
- ・よく働き，進んで協力奉仕に努めよう。

心豊かな中学生になろう。

研究テーマ	相互作用を生かし，参加度を高める学習指導 －－－課題と評価の研究を通して－－－

教科指導	特別活動	道徳指導
・一人ひとりがめあてを持ち，自律的な学習ができるようにさせる。 ・お互いに認め合い，励まし合って目標に到達しようとする学習態度を身につけさせる。 ・成就感を味わわせるとともに，学力向上に努めさせる。	・学校生活を見つめ，集団の一員として，自ら積極的な活動ができるようにさせる。 ・仲間と助け合い，認め合いながら，積極的な自治活動ができるようにさせる。 ・「みんなの幸せは自分の幸せ，自分の幸せはみんなの幸せ」であることに気づき，心のかよいあう生き生きとした学校生活ができるようにさせる。	・人の個性や立場を重んじ，自己の向上に努めることができるようにさせる。 ・自己の所属する集団を愛する心を育て，よりよい集団を作ろうとする態度を身につけさる。

育てたい生徒像

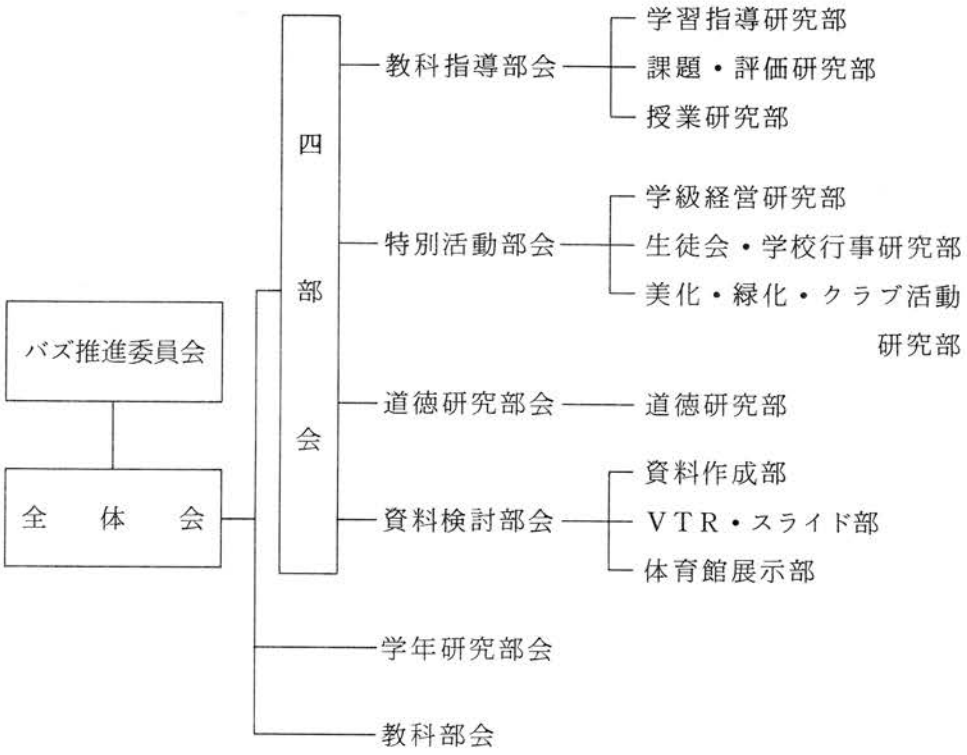
・学力の向上をめざし，自律学習ができる。
・自分の考えを持ち，積極的な自治活動ができる。
・友人を思いやり，認め，励まし合って生活できる。
・奉仕活動に進んで参加し，潤いのある学校生活を送ることができる。
・笑顔の絶えない，生き生きとした学校生活を送ることができる。

研究の内容

教科指導	特別活動	行事	道徳指導
・学習規律の定着と学習の意欲づけ ・指導目標の明確化と指導内容の焦点化 ・課題の工夫と評価の研究 ・資料・教育機器の活用 ・効果的な教材・教具の工夫	・学級の時間の充実 ・短学活の充実 ・係活動，美化・緑化活動クラブ活動における実践 ・学校生活に根ざした着実な生徒会活動の充実	・生徒による旅行的行事の主体的な運営（学年・学校行事） ・行事の独創的な企画と運営 ・目的意識を持った生徒活動の促進	・道徳指導の中での相互活動の有効性 ・資料の研究 ・発問の工夫

目標設定 …… 課題 …… 実践 …… 評価 …… 発展

5. 研究組織と役割



＜各組織の役割＞

ア．バズ推進委員会　◎ 研究推進　研究計画　研究の骨子作成
研究紀要

イ．教科指導部会　◎ 学習規律の確立　課題と評価の研究
指導過程　学習課題構成図　授業分析

ウ．特別活動部会　◎ 短学活の研究　生徒会活動　クラブ活動
学校行事　美化・緑化活動

エ．道徳研究部会　◎ 資料の工夫　発問と相互活動

オ．資料検討部会　◎ 資料の収集と提供　資料分析　資料の保存
記録（VTR・スライド・写真）

Ⅲ　研究の経過

1.　昭和60年度の取り組み

研究主題に「相互作用を生かし，参加度を高める学習指導」を掲げ，教育活動の中で生徒と生徒・教師と生徒の相互活動を基盤に人間関係をより親密に高めることをねらって取り組んだ。

学級では，連帯感のある学習集団を目指してバズ学習の基本的なことを学習態勢の確立の中で一歩一歩積み重ねた。現職教育では，共通理解を図ることが柱であり，全体会で基本線を提案し，学年部会や教科部会を軸に具体化していった。

(1)　現職教育で研究協議し，実践したこと

- ○バズ学習の基本的な考え方と理論
- ○班の意義，班編成の方法とその活用
- ○話し合いのさせ方
- ○授業の中でのバズの実際……授業法研究
- ○短学活の運用

(2)　学年での取り組み

- ○バズ学習の基本的なルールの徹底
  - ・基本事項を学級に常掲して指導
  - ・話し合いのルールを指導
  - ・バズ強調目標を設定して指導
  - ・手引きによる指導(活発に発言，よく聞こう，班長の役割と司会等)
- ○相互交流
  - ・短学活の相互参観と研究協議

(3)　教科での取り組み

- ○授業研究計画により授業公開と研究協議
  - ・バズの場面設定の適切さ
  - ・学習課題の適・不適
- ○指導案の検討

(4) バズ態勢の基盤作り

- 日課表の検討 …… 短学活の時間確保(15分を25分に)
- 短学活のプログラム作り …… 生活バズと復習バズの導入
- 連絡黒板の設置 …… 生徒の自主活動の促進
- 学習記録ノートの導入
- バズの手引きの編集
- 学校行事の精選 …… 生徒に主体性を持たせる行事の確保
- バズ推進のプロジェクトチームによる研究の活性化

2. 昭和61年度の取り組み

昭和60年度の基礎的な研究をより実践的に発展させるため，本校がバズ学習に取り組む必然性を現状に照らして分析し，次の視点で研究を継続した。

◎自主的・主体的に行動できる生徒の育成
……生徒が生き生きと自主的に活動している学校作り
◎参加度の高い授業の創造
……個人思考と相互作用が有機的に結合，指導技術の向上
◎温かい人間関係を基盤にした教育活動の実践
……尊敬と信頼関係，親和と協力関係の重視
◎評価への意識化
……教師の形成的評価と生徒の自己評価・相互評価の実践

なお，プロジェクトチームを発展的に解消し，研究組織にバズ推進委員会を加え，実践的に研究に取り組んだ。

(1) 学習課題の研究

バズ学習の中で効果的な話し合いをさせるため，適切な学習課題について各教科で検討をはじめた。教科で一単元・一題材を取り上げ学習課題を作成し，授業を通して確かめた。

(2) 学習条件の整備とパターン化

基本的な学習のパターンを確認し，学習のルールの徹底に向けて努力した。

(3) 実態調査と強調月間の取り組み

バズに取り組んで実質1年が経過した段階で，全校的にバズチェック表を用いた実態調査を実施した。

○話し合いの形とその経験	○話し合いの進め方の経験
○司会者としての進め方	○班のチームワーク作りについて
○短学活の運営について	○班の役割について

その結果，バズ学習のルールが全般に不徹底であること・班のチームワーク作りが弱いこと・人間関係の基盤作りはできてきたが班員相互の厳しさに欠けること・短学活の運用に主体性のないこと等が指摘された。

そこで，これを受けて各学年でバズ強調月間を設定し，基本を確立させる取り組みをはじめた。

○学級重点目標の設定

○学習のルールの再確認

○短学活の取り組みの強化

・パターンの定着化　・教師の指導の強化

・生徒の意識の高揚　・短学活記録表の活用

○学年通信等による保護者への呼びかけ

(4) 学級日誌の検討と改善

学級日誌を廃止する方向で検討を加えたが，生徒の活動の様子を把握する資料として活用し存続させることとなり，改善をはかった。

(5) 学習計画ノートの検討

「学習計画ノート」を「記録ノート」と改称し，生徒の自己反省の資料として活用できるようにした。

(6) 生活ノートとバズの手引きの統合

「生活のきまり」と「バズ学習の手引き」を統合し，「中部中学校の生活」と題する生活の手引きを作成した。

現在，記録ノートや学級日誌等と併用して生徒の指導に役立てている。

3. 昭和62年度からの取り組み

バズ推進委員会が研究推進の中心となり，教科指導部会・特別活動部会・資料検討部会で具体化していった。部会の中に小部会を構成し，全職員がいずれかに所属し研究を進めた。昭和63年度からは，道徳部会も加え取り組んだ。

(1) 教科指導部会の実践

ア. 指導過程の工夫

学習効率を上げるために，準備過程・中心過程・確認過程の中でどんな工夫を教師がしなければならないかを考え，指導過程をパターン化し，授業研究で検証した。

- チャイムと同時に学習開始の意識化 ……予備課題の工夫
- 目標の明示や課題提示の工夫
- 評価活動の重視

イ. 一人ひとりの積極的な学習への指向

授業の中で積極的に相互活動を取り入れることをねらい，教科部会や学年部会で検討した。

- 学習規律の確立
- 話し合いのルールの徹底
- バズ設定場面の工夫
- ハンドサインや反応器の活用

ウ．学習課題と評価の研究

生徒の相互活動をいかに活性化していくかを，学習課題の検討や評価の工夫を中心に取り組んだ。

○学習課題の作り方 ○学習課題構成図の活用 ○学習評価の工夫 …… 教師の評価と生徒の自己評価・相互評価

エ．授業研究の充実

バズ学習の実践面からの研究を深めるため，学年を主体にした授業研究を実施した。授業参観の視点を明確にして臨み，生徒の参加度や学習意欲や学習課題の適切さを分析し，授業改善に役立てた。

(2) 特別活動部会の実践

生徒の自主的活動を盛り上げるために，生徒の創造性を企画にどう取り入れ，実行委員やリーダーをいかに積極的に活動させるかを考え取り組んだ。

ア．短学活の充実

○短学活のプログラムの再検討 ○相互参観の具体化 ○復習バズや生活バズの充実 ○短学活記録表・記録ノート・班ノートの効果的な活用

イ．美化・緑化活動やクラブ活動等での実践

○美化・緑化活動でのパターンの定着 ○クラブ活動での実践

ウ. 生徒会活動・委員会活動での実践

○学校生活の向上を目指した活動の展開 ○生徒会主催行事の活性化　実行委員会の活動 ○委員会の自主活動の助長

エ. 学校行事での実践

○３年間を見通した学校行事の展開 ○宿泊学習・野外学習・修学旅行・遠足等での主体的な活動 ○実行委員による企画・運営

(3) 資料検討部会の実践

生徒の実態調査をはじめとし，バズ学習の成果や生徒の高まっていく姿を記録に残した。また，資料の保管や資料改善に取り組んだ。

ア. 学校生活の記録保存と資料作成

○学校紹介ＶＴＲの作成 ○記録写真・スライドの作成

イ. 実態調査と分析

ウ. 生活の手引き・記録ノート・班ノートの活用状況の分析

○効果的な活用の実態 ○記録の保存と啓発活動への利用

Ⅳ 研究内容

1. 一人ひとりが生き生きと活動する授業を目指して

(1) 目標を持ち，積極的に参加する学習指導

「生徒一人ひとりが生き生きと活動する授業」が，本当の授業であろう。そのためには，「自律学習ができれば，学力が向上する」，「友だち同士が励ましあって目標を達成すれば，人間関係は，より親密になる」と仮説を立て，授業の中で積極的に相互活動を取り入れ，実践を深めてきた。

ア. 指導過程の工夫

学習効果を上げるためには，学習過程の練り上げが必要である。

一時間の授業を準備過程，中心過程，確認過程の三つに区分し，次のような流れを基本にすえて指導してきた。

(ア) 個から集団へ，集団から個へ

学習は，一人ひとりの生徒が，自分で考え，自分で判断し，自分で実行し，自分で評価するものでない限り自分のものにならない。

したがって，「個」から発して「集団」へ入り，質が高められて「個」へ戻っていく大原則の中で，個人と，集団の相互作用が，調和的に統合されたものでなければならない。

すなわち，自分の考えを持ち，班の活動に参加し，他の人の意見を聞いたり，自分の考えを発表したり，話し合うことにより，自分の考えや理解が深まるのである。

(イ) 基本的な授業展開

個から集団へ，集団から個へという原則にしたがい

準備過程 → 中心過程 → 確認過程の流れを大切にし，それぞれの過程で，

課題提示→個人思考→バズ→発表→教師の補足修正とまとめを組み，進めている。しかし，このパターンは原則であり，教科や指導内容により個々の比重には，柔軟性を持たせている。

基本的な流れ	教師の活動	生徒の活動
始業チャイム		○着席・忘れ物調べ ◎予備課題に取り組む ・前時に教師の指示した課題 ・教科係の課題 ・班ごとの課題
学習開始		
準備課題	◎本時の目標の明示 ・認知目標，態度目標	
個人で思考	◎本時の学習の中心に迫る事ができる ・基本的事項，既習事項	◎まず個人で考える ・わからなかったら聞く ・聞かれたら教える
バズ	○机間巡視，個別指導 ○班のつまずき確認	・「やめ」で前を向く ○バズの形態 ・隣接法，対人法，指名法 輪番法，自由会話法
結果の発表	○結論の発表（個人か班）	
教師のまとめ	○生徒の認知状況の把握 ○中心課題へつなげる補足と問題意識の喚起	○返事をはっきり語尾までしっかり
中心課題	◎これを解決すると本時の学習目標が達成できるように構成	◎何を考えるか明確にする
個人思考	○課題の適，不適の判断	◎自分の考えをノートに
バズ	○全員発表を班長に指示 ○机間巡視，個別指導	○班長は全員の意見を聞く ○バズの形態 ・隣接法，対人法，指名法 輪番法，自由会話法
結果の発表 全体討議	◎班の話し合いの内容を的確につかむ ◎問いかけ，ゆさぶりをかけて話し合いを深める	○返事をしっかり語尾まではっきり
教師のまとめ	○全体討議の評価 ○補足説明，修正	○よく聞く
確認課題	◎課題構成の検討 ・中心課題の類題 ・発展的な問題 ・まとめになる問題 ・次時の準備につながる問題	○自己の評価テストとして真剣に
個人思考		
バズ	○理解不十分な所の質問を受ける	◎不明点を聞き合う，教え合う ○バズの形態 ・隣接法，対人法，指名法 テスト法
教師のまとめ	○補足 ◎認知，態度目標の評価	
次時への発展	◎次時の指示 ○家庭学習のポイントの指示	◎班で確認

イ．学習ルールの確立

バズ学習を効果的にするためには，「話し合う」「聞く」「教え合う」などの班活動が，しっかりできなければならない。

そのためにも学習ルールを確立することが，何よりも大切なことになってくる。生徒たちにその大切さを理解させ，さらに自ら積極的に身につけようとする態度を育成するために，次のような点にポイントをしぼって指導してきた。

(ア) 予備課題からの出発

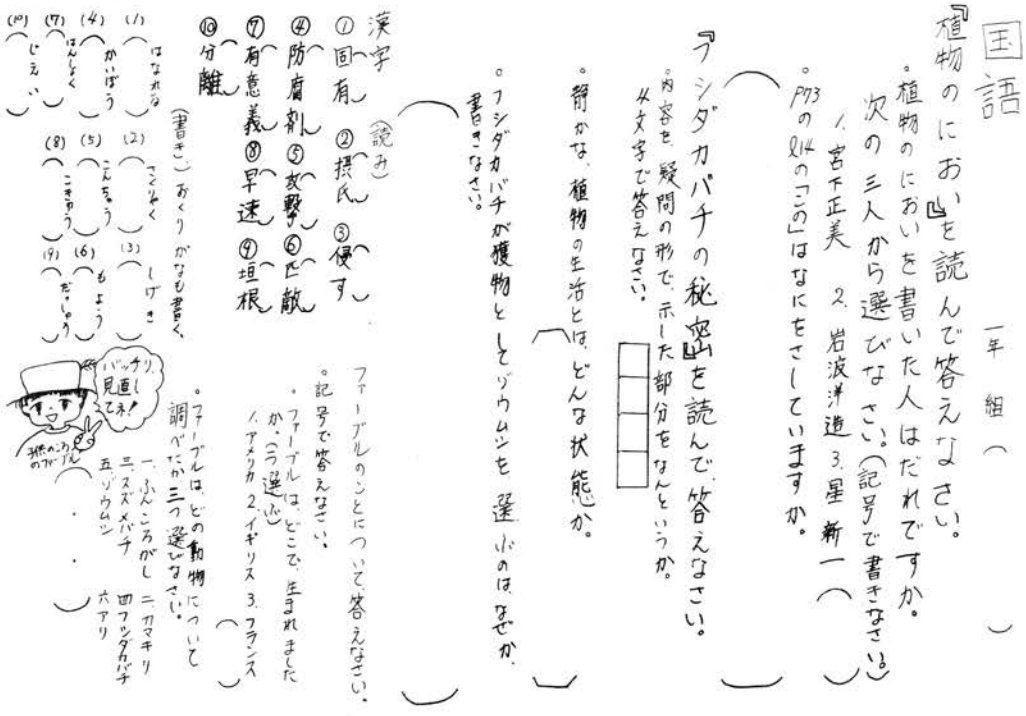
チャイムと同時に自主課題に取り組むことが授業の始まりとなる。

本来，個人や班が目的意識を持って本時の学習内容につながる自主課題に取り組むべきだが，現在は，その前段階として，主に教師または教科係の指示で全教科予備課題に取り組むよう指導している。

その内容は教科によって異なり，前時の復習，ドリル，本時の内容調べ等，教科部会で検討し，全校態勢で取り組み進めている。

この予備課題は，すでに一部自主課題となっているが，全面的に自主課題に移行するよう高めていきたい。

次に示すのは自主課題として，班で作成した問題集である。


国語　一年　組（　　）

『植物のにおい』を読んで答えなさい。

・植物のにおいを書いた人はだれですか。次の三人から選びなさい。（記号で書きなさい。）

1. 宮下正美　2. 岩波洋造　3. 星新一（　　）

・P73の14の「この」はなにをさしていますか。

（　　）

『フシダカバチの秘密』を読んで、答えなさい。

・内容を、疑問の形で、示した部分をなんというか。4文字で答えなさい。

□□□□

・脅かす、植物の生活とは、どんな状態か。

（　　）

・フシダカバチが獲物としてゾウムシを選ぶのは、なぜか、書きなさい。

（　　）

漢字

（読み）

① 固有（　　）　② 提氏（　　）　③ 侵す（　　）

④ 防衛（　　）　⑤ 攻撃（　　）　⑥ 匹敵（　　）

⑦ 有意義（　　）　⑧ 早速（　　）　⑨ 垣根（　　）

⑩ 分離（　　）

（書き）おくりがなも書く。

(1)（はなれる）　(2)（ていねい）　(3)（しげき）

(4)（かいぼう）　(5)（こんちゅう）　(6)（もよう）

(7)（ほんしゅく）　(8)（こきゅう）　(9)（だいじょう）

(10)（じえい）

ファーブルのことについて答えなさい。

・記号で答えなさい。

・ファーブルは、どこで、生まれましたか。（3つ選び）

1. アメリカ　2. イギリス　3. フランス（　　）

・ファーブルは、どの動物について調べたか三つ選びなさい。

一、ふんころがし　二、カマキリ　三、スズメバチ　四、フシダカバチ　五、ゾウムシ　六、アリ

（　　）

バッチリ見直してネ！

孫のファーブル

(イ) 認知目標，態度目標の明示

生徒が授業の始めで本時の学習のめあてを具体的に知り，態度的な目標もはっきりと認識して授業を創ることこそ，学習の効果を高める重要なポイントであろう。

ともすれば，項目的な指示で終わりがちな目標も具体的に，本時は「このようなことがわかればよい，できるようになればよい」「このような姿勢で授業に臨もう」というように明示することが大切である。

これらを習慣化するために表示板を各教室に準備した。

また，指示した目標については，授業の終わりに必ず教師側からの評価，または生徒同士が相互評価をすることにより，さらにその効果を高めている。

(ウ) ハンドサイン，反応器の活用

ハンドサインとか反応器は，生徒側からすれば，自分の考えや立場をしっかりと認識し，意志表示の一つの方法であり，教師側にとっては即時評価の一つの方法である。

ともすれば集団に埋没してしまいそうな中で個人の考えを大切にするバズ学習の原則から見ても，自分の考えをはっきりとさせるハンドサインや反応器は有効であることは言うまでもない。

ハンドサインについては，個々に使われていたが，前年度，全校で様式が統一されたことにより活用がされやすくなった。

反応器については，主に社会科・理科等で活用され，作業の進み具合を見たり，理解度を判断することは，もちろんのこと，生徒は先生が自分の理解度や進み具合を知っていてくれるという安心感を持ち，より意欲的に学習に取り組むといったような効果を上げている。

(エ) 話し合いのルールの徹底

バズ学習を進めるにあたって，話し合いのルールを守ることは不可欠である。話しやすい机の配列の中でむだ口をなくし，自分の考えを持ち，そのうえで話し合える態度を育成するために「生活の手引き」を活用し，特に年度初め，計画的に学裁・短学活の時間を利用し指導している。

(オ) バズ学習の診断

学習が円滑に行われるためには，時々，項目別にチェックし診断してみる必要がある。

これは教師側からばかりでなく，生徒自らもチェックすることにより反省したり，再確認したりして学習効果を上げるものである。

そこで「バズ強調週間」を設定した。期間は1～2週間とし，チェック項目は3～5項目で，帰りの短学活時にチェックし，「バズ学習チェックカード」に班ごとに記入させている。

チェック項目は現状に応じ「むだ口追放」「課題解決につながる話し合いができたか」などを設定し，1週間で実行できない場合は2週間継続する場合もある。チェックカードは期間中，必ず班長の机の横に備え，教科担任もそのクラスの状況を把握し，時には評価し，注意したり励ましたりしている。

バズチェックカードの例

バズ学習 チェックカード	
2月15日～ 2月27日	

1班	伊藤 真利奈
	西 俊郎
班長 渡辺 美幸	
甲斐 守宗	

班員全員できて …… ○
それ以外は …… ×

項目＼日・曜日	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	20日(土)		22日(月)	23日(火)	24日(水)	25日(木)	26日(金)	27日(土)	
チャイムと同時に予備課題に取り組めたか?	×	×	○	○	○	○	2	テ	テ	テ	○	○	○	2
むだ話追放!	×	○	○	○	○	○	1	ス	ス	ス	○	○	○	1
課題解決につながる話し合いができたか?	○	○	○	○	○	○	0	ト	ト	ト	○	○	○	0
話し合いのすすめ方は良かったか?	○	○	○	○	○	○	0				○	○	○	0
全員が自分の意見を言うことができたか?	○	○	○	○	○	○	0				○	○	○	0
担任印	井	井	井	井	井	井	井				井	井	井	井

(2) 学習課題と評価の研究

ア. 学習課題の作成

(ア) 学習課題のねうち

生徒の相互活動をいかに活性化させるかは，学習課題のねうちにかかってくる。教師は，学習活動の中で指導目標をどう生徒に達成させるか常に考えねばならない。そのために，指導目標にてらして仕事を与え，生徒の思考や知識・技能の定着をうながす働きかけをしなければならない。

学習課題は，まさにこの仕事の内容を具体的に示すものであり，学習過程の中に意図的に組み込まれていなければならない。

したがって，学習課題の適・不適が学習効果を左右する重要な条件となる。

現在，「学習課題が存在しないところでは，学習が成立しない」ことを十分認識し，適切な学習課題作りを進めている。

(イ) 学習課題の設定

学習課題は，単元や題材の全体について生徒と教師が共同しながら全体の見通しを立て設定し，生徒たちがその課題に従って学習を進めていくのが望ましい。しかし，現実には時間という大きな制約があるし，生徒たちの出す学習課題が教科の系統性や指導目標と合致しないことも十分予想できる。したがって現在は，教師が設定する方法をとっている。そして，その手順は，次のようである。

単元・題材の目標→教材研究→指導内容の系統化と精選→指導目標の設定→学習課題の構造化→学習課題の決定

(ウ) 学習課題の修正

学習課題を設定し授業に臨んでも，個人思考が深まらず，加えて相互活動や話し合いがまったく盛り上がらない経験を持つことがある。

これは，学習課題に問題があることが多く，即時評価をてだてとし，つねに修正・改善していかなければならない。

イ．学習課題構成図

(ア) 学習課題構成図のねらい

バズ学習において，話し合いをより効果的にさせるためには，学習課題が適切であることが大切である。

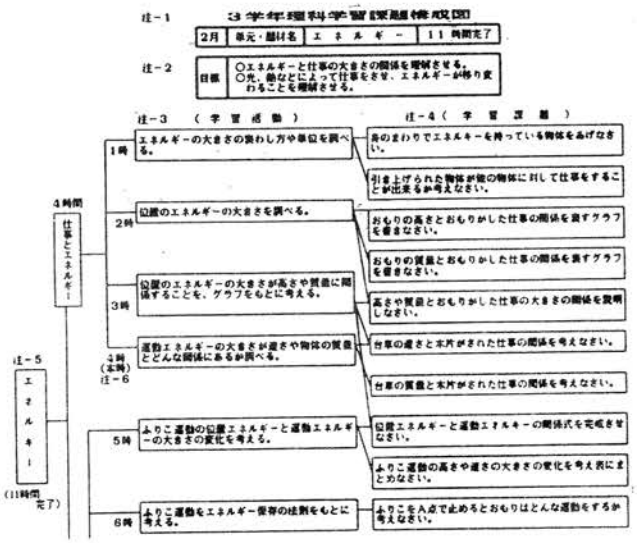
本校では，その一助として学習課題構成図を作成し，単元や題材の導入時に生徒に示している。

しかし，日が浅く全教材を網羅しているわけではない。

学習課題構成図は，教師が指導内容の構造化をはかるのに有効な側面と生徒に学習の見通しを知らせ，学習意欲を喚起するねらいを持っている。

単元や題材のまとまり（10時間くらい）を単位として，指導目標・生徒の学習活動の概要・主たる学習課題等を示し，B5程度で印刷し配布している。また，並行して自己評価表・進度表等も添付し，学習結果をチェックさせ学習の意識化を図っている。

私たちにとっては，指導過程を今まで以上に練り上げるようになり，教材研究も深まり，学習課題構成図をもとに指導法を話し合う機会も多くなった。

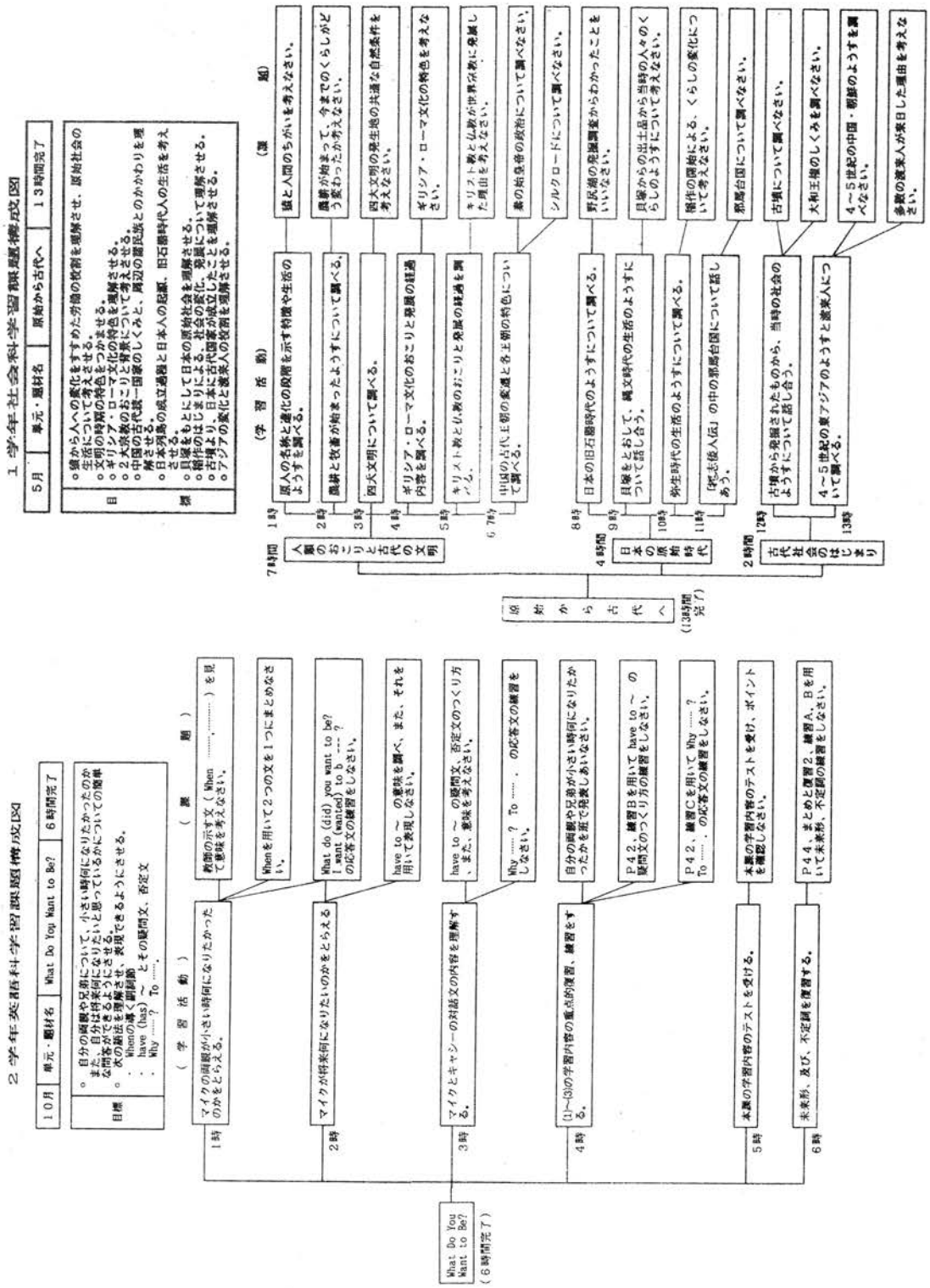


『学習課題構成図について』

1．単元や題材に入る前に生徒に配布する。生徒には，B5程度で学習内容や学習課題を主にして示すものとする。
2．単元や題材の第1時に配布し，単元や題材の概観をさせるものとする。
3．原則として1単元，1題材とするが　時間数が多すぎたり少なすぎる場合は，教科で自安の確認をしておく。
4．授業研究の指導案にも添付する。（B5縦）　個人評価表や進度表とあわせてB4の横で与えてもよい。

【留　意　点】
注－1 第○学年○○科 学習課題構成図　とする。
注－2 目標欄には，単元や題材の目標を教師の立場にたって書く。
注－3 学習活動には，学習内容の概要を書く。指導案の学習活動に準ずる表現にする。
　　調べる。考える。まとめる。把握する。表現する。話し合う。など
注－4 学習課題の欄には，学習内容を展開するのに必要な準備課題・中心課題・確認課題を記載する。
　　したがって，表現は「○○○しなさい。」「○○○調べなさい。」の課題を示す表現とする。
注－5 単元名や題材名を書く。完了時間数を必ず示す。
注－6 学習指導案の本時課題を明記する。（本時）と明記する。

(イ) 学習課題構成図の具体例



ウ. 学習の評価

(ア) 評価の実際

授業を充実させたいということは，どの教師にとっても共通な願いである。しかし，ともすると私たちは，授業実践の中で確かめ合う内容が，指導法とか指導技術とかいわれる領域にのみ目を奪われる傾向があった。

授業で大切なことは，指導した内容が生徒に理解され，定着したかどうかである。

そこで，私たちは，学習課題を提示し，生徒の理解や定着を意識的に確かめながら指導を繰り返していく必要があると考えた。

学習課題を提示し，確かめていくこの営みが評価活動であり，その積み重ねが形成的評価である。したがって，評価活動の出発は即時評価であり，それが授業の中で組織化されていなければならない。

a. 即時評価

1時間の学習過程は，準備過程・中心過程・確認過程の三つに区分されるが，それぞれの過程で学習課題が設定される。その学習課題ごとに生徒の理解を確かめながら指導を継続していく。

そこで，意図的な即時評価がなされなければ，学習効果は期待できないと考え，次のような取り組みをしている。

(a) 小テスト

準備過程や確認過程で主として行う。準備過程で行うものは，復習的事項や本時の学習内容の予想的なものや先行経験を調べるものなどを内容とする。

これによって，本時の学習目標を明確化したり，学習課題の意識化を図らせることができる。

確認過程では，本時の学習内容を確認するものを多く取り上げている。

テストの結果からわからないところを明確にさせ，自己評価や相互評価させたり，再確認させたり，時にはフィールドバックをして，学習目標への到達をより確実なものにするよう努力している。

(b) ハンドサイン

授業の流れの中で，生徒の反応を瞬時に読み取ることができ，簡単にチェックできる。様々な活用ができるが，安易な扱いをするとマンネリ化してしまう。

(c) 反応器

上下を赤と白に塗り分けた木製の四角柱を反応器として使っている。

白から赤へあるいは赤から白にする状況を教師が見て，生徒の思考や作業の進行状況や理解できた生徒とそうでない生徒などがチェックできる。

これにより，話し合いのけじめをつけることやフィードバックへのてがかりを得ることができる。

(d) 机間巡視

相互活動の状況や生徒個々の学習のつまずきを確かめる目的で行う。ここで得た情報が生かされ，授業が活性化でき，フィードバックを容易にすることもできる。

(e) 自己評価表

学習内容をより的確に把握し，自分のものにするために，学習結果をチェックし，「どこがわかり，どこがわからないか」をはっきり確認させるために，自己評価をさせている。

これにより，わからないところを友だちにはずかしがらないで聞けるようになり，学習への意欲を高めることができる。

(f) 進度表

技能をともなう教科では，技能習得への到達段階を示し自己評価・相互評価をさせ，つまずきを発見させたり，個別指導に役立てたりしている。

b. 評価活動の意識化

教師が，評価活動を意識的・計画的に授業の中に取り入れることが大切である。そのためには，指導過程の中で評価の観点や手法が明確になっていなければならない。

本校では，学習指導案に評価欄を設けて意図的に行っている。

授業の節目で評価活動が，行われることにより，教師が指導法の自己点検をし，生徒の反応結果と合わせてフィードバックを効果的に行ったりしている。

これにより教師のひとりよがりの授業が解消され，より充実した授業が行われるようになってきた。

	学習活動	留意点	評価
準備過程	木材の各部の名称を調べなさい。		
	1．木材の各部の名称を調べプリントに記入する。 2．調べた名称を発表する。 3．本時の内容を知る。	・教科書を参考に班で協力して調べさせる。 ・個人を指名する。 ・年輪・繊維についてモデルを使って説明する。	・協力して調べているか。（机間巡視） ・発表された意見に反応しているか。（ハンドサイン）
中心過程	繊維の特徴についてまとめなさい。		
	4．プリントに沿って繊維のモデルを使い実験する。 ・繊維に対し平行な力 ・繊維に対し垂直な力 ・繊維方向の長さ 5．実験結果をもとにかかる力に対する繊維の強さについてまとめる。	・実験する者・記録する者をしっかり決めさせる。 （平行な力＜＜垂直な力となるように指導していく。） ・どうしてそうなるのかも考えさせる。	・自分の仕事をしっかり果たしているか。（机間巡視） ・班の中で教え合えているか。（自由会話法）
	木材の変形についてまとめなさい。		
	6．変形した木材を観察し変形の方向について考える。 7．プリントにまとめる。	・年輪の方向に注目させる。 ・木表側か木裏側かどちらに反っているか。 ・水分についても触れさせる。	・どちらに反っているか気がつけたか。（隔接法）
確認過程	木材の有効的な使い方についてまとめなさい。		
	8．実験・観察した結果より木材の効果的な使い方をまとめる。 9．次時について聞く。	・プリントに沿ってまとめさせる。 ・次時について話す。	・木材の有効的な使い方が理解できたか。（隔接法・発表）

(イ)　自己評価表や評価カードや進度表

学習の真の喜びとは，自分のものにした課題に挑戦し，それを克服した時の満足感・成就感にある。そのためには，生徒に自分の目標を設定し，積極的に立ち向かっていくような態度を身につけさせなければならない。

自己評価表や評価カード等は，まさにこの願いをこめた試みである。

各教科で様式や方法は異なるが，自己評価表や評価カードや進度表を用いて，自分の学習を

振り返らせる資料にしたり，相互活動を活性化する媒体として活用している。

しかし，認知目標や態度目標をいかに評価表の項目の中に両者を関連させて組み込むか，むずかしいところである。

現在，取り組み始めであるが，次のような効果が出てきている。

- 生徒の到達度や技能の習得程度がはっきりし，学習への意欲化が図れる。
- 次に提示する学習課題の準備や次時の計画化に役立つ。
- 相互活動を活発にし，欠点を補正したりし，到達目標により早く近づくことができる。

器械運動　個人カード　3年2組4番　氏名　伊藤留美子

S.62.10～11

1. 学習予定

時間	種目	学習内容
1	平均台	学習計画を知る、上がりの練習、班編成、役割分担
2		歩、跳躍、おりの練習
3		1/2回転、連続技の練習
4		競技会、テスト、反省
5	マット	開脚前転、開脚後転
6		伸膝後転、伸膝前転
7		側転、連続技の練習
8		競技会、テスト、反省

2. 種目別課題

種目	技	Cランク	Bランク	Aランク
平均台	上がり	とび上がる	3拍子までで止まる	美しく上がる
	歩	下を見ない	手を動かして歩く	美しく歩く
	跳躍	足かえとび	猫とび	前後開脚
	1/2回転	落ちない	手をつけて回る	美しく回る
	おり	開脚おり	足かかえおり	下向きおり
マット	開脚前転	後方に手をつかず起きる	ひざを伸ばす	手を着かず起きる
	開脚後転	一直線上を回転	起きる時ひざを伸ばす	最初からひざを伸ばす
	伸膝後転	〃	〃	〃
	伸膝前転	からだの前屈ができる	片ひざ伸ばす	両ひざ伸ばす
	側転	腰を伸ばす	足先まで伸ばす	一直線上を回る

到達できた項目は、ぬりつぶしていこう。

（3）年理科学習　自己評価表

3年 2 組（6）番（小川 知子）

単元	水溶液を流れる電流	13時間完了	6月

時間	月・日 ~~(時)~~ 曜	学習内容	集中できたか	よくわかったか	話し合いに参加できたか
1	6・2（月）	溶媒 溶質 溶液	⊕ ○ －	⊕ ○ －	⊕ ○ －
2	6・29（水）	パーセント濃度	①	①	①
3	7・1（金）	固体 液体に電流を流す	①	①	①
4	7・2（土）	〃	①	①	①
5	7・8（金）	塩化銅に電流を流す	①	①	①

今後は，評価基準を明確にして臨ませたり，評価表等の記入後は，目を通して評を入れたりして，意欲化を一層図って行く必要を感じている。

(3) 学習指導法改善への取り組み

ア. 授業分析の導入

私たちは，「わかる授業・充実した授業」を常に目指している。そして，これをさらに推し進めるために，生徒の参加度を中心にした授業分析を行い，指導法の改善のための資料づくりに取り組んでいる。

イ. 授業分析の実際

参加度の調査は，その基準が不明瞭で，とらえにくい部分が多いが，次の視点をもとに授業参観者（教師）による観察と生徒へのアンケートを実施した。そして，参加度がどのような傾向にあるのかを考えることにした。

観察とアンケート調査の視点

＜観察＞	＜アンケート＞
○学習課題解決のための話し合いの内容や回数	○授業に対する満足度
○わからないところの教え合い	○授業の理解度
○班の雰囲気	○班内の協力

(ア) 授業参観者（教師）による参加度の調査

大変良い＝＋2	
＋1	
普　　通＝　0	
－1	
大変悪い＝－2	

参加者が分担して各班を観察し，班員の相互活動の様子から班全体の参加度を学習課題ごとに，「大変良い，良い，普通，悪い，大変悪い」の5段階で記録表にチェックした。（資料1）そして，チェックされた各課題ごとの参加度を左記のような点数に置き換えて集計し，学級全体の参加度の傾向をグラフ化した。

（資料2），（資料3）

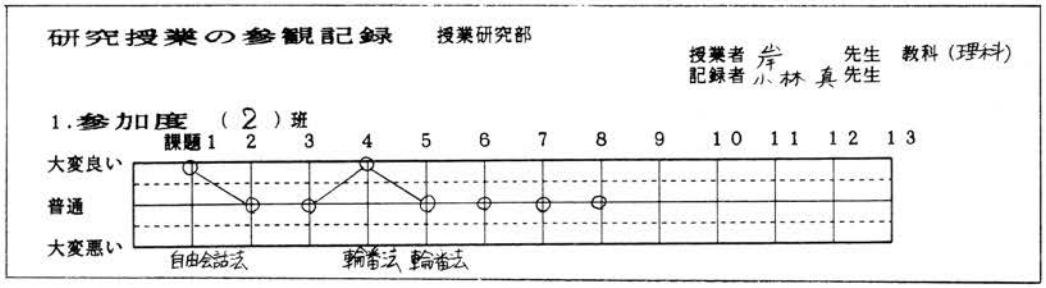
(イ) 生徒へのアンケートによる参加度の調査

は　い＝	＋2
	＋1
普　通＝	0
	－1
いいえ＝	－2

教師の観察だけではなく，生徒自身が授業に対してどの程度参加したと考えているかの把握を試みた。

アンケートの集計は，項目ごとに左記のような点数に置き換えて行った。ただし，項目1については集計から外し，補助資料とした。（資料4），（資料5）

（資料1）

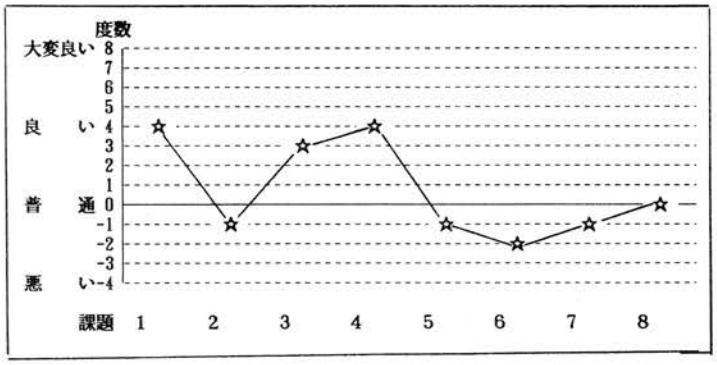


理科1年　10班中4班分の観察結果（資料2）

班＼課題	1	2	3	4	5	6	7	8
1	0	-1	1	0	0	0	0	0
2	2	0	0	2	0	0	0	0
3	0	0	2	2	0	-1	0	0
4	2	0	0	0	-1	-1	-1	0
合計	4	-1	3	4	-1	-2	-1	0

資料2の各課題ごとの合計値をグラフ化したものが，資料3である。このグラフの最大値は，観察した班の参加度が全べて，「大変よい＝2点」の時の8であり，最小値は，「大変悪い＝－2点」が全観察班でみられた時の－8である。

（資料3）



個人アンケート用紙　　（資料４）

次の項目について正直に答えなさい。　（ ㊚ ・ 女 ）

		はい	ふつう	いいえ
1	あなたの成績はよいほうですか		①	
2	今の授業は楽しくできたか		①	
3	今の授業はしっかり勉強できて満足か			①
4	今の授業はうちとけた気持ちでできたか		①	
5	今の授業はよくわかったか		①	
6	班のみんなが意見をだすことができたか		①	
7	今の授業で仲間は協力したか		①	
8	今の授業で先生は親切だったか		①	
9	次の授業が楽しみか			①
10	今の授業内容を家で復習してみたいか			①

ご協力ありがとうございました。

学級の度数集計
（資料５）
理科 回答数：45

項 目	度 数
2	26
3	22
4	12
5	42
6	16
7	33
8	36
9	14
10	-7

90＝大変良い　45＝良い
0＝普　通
-45＝悪　い　-90＝大変悪い

(ウ) 学習指導技術に関する調査

参加度以外に，教師の学習指導技術について，参観者の感想を表にして学習指導法改善の資料の一つとした。また，参観者に気づいたことをメモしてもらい，具体的な指摘も得られるようにした。（資料６）

（資料６）

２．教師の指導チェック　記録（　　）授業者（岸　）先生

チェック項目	大変良い	普通	改善の必要
1 学習目標の設定			
2 課題の内容			
3 発問の内容			
4 資料の内容			
5 教材教具の工夫			
6 バズの使い方			
7 板書の仕方			
8 個人への配慮			
9 学習全体の流れ			

１０その他　メモ

実験結果のまとめであるために，教師の説明が多い。
発言の声が小さい。

ウ. 学習指導法改善に向けて

(ア) 授業者の反省点と改善点（資料３と５による）

授業の中心となる学習課題は，５・６・７であったが，この部分の参加度が低かった。課題解決の時間が不十分であったこと，生徒の相互活動による学習が活発に行われなかったことが原因として考えられた。改善策の一つに，もう少し段階的に考えさせられる課題を提示する方法が指摘された。

しかし，資料３の中には参加度の高かった課題もあり，資料５からは，生徒自身が「参加した」という意識もみられ，結果として，バズ学習の成果がある程度おさめられたと考えられる。

(イ) 今後の取り組みについて

授業分析による学習指導法改善に取り組んでからまだ日が浅く，分析方法や分析結果の信憑性が十分であると考えてはいない。しかし，教師が自らの授業を反省し，改善をするための一助となったことは確かである。

現在までに，この方法による授業の分析実践が少ないので，同様の分析方法による他学級の授業分析やバズを使用しない場合の授業分析など，幅広い観点からの分析を行うことが必要であろう。

今後，さらにこの実践を積み重ね，バズ学習による指導法の改善を図っていきたい。

2. 生徒の自主的・自律的な特別活動を目指して

(1) 短学活の充実

ア. 短学活のねらい

朝の短学活は一日の学校生活の出発点であり，帰りの短学活は一日の生活のまとめである。つまり，短学活は一日の学校生活を円滑にするという重要な機能をもっている。そして，学級担任にとっては，学級経営の目標を具体的に展開していくための大切な場でもある。このように，短学活は短い時間ではあるが価値のある時間なのである。

そこで私たちは，短学活のねらいを次の4点に置いた。

① 学校生活に積極的に取り組む意欲を育てる。

② 生徒による短学活の自主的運営をうながし，自律的な生活態度を身につけさせる。

③ 教師と生徒，生徒相互の理解を深め，望ましい人間関係を育てる。

④ 教科，道徳，特別活動の準備，問題の提起，学習の発展の場として活用する。

イ. 短学活のプログラム化

(ア) プログラム作成の経過とねらい

短学活に対して，教師がはっきりした意図を持たずに運営に当たると，生徒の側にある授業の終わった後の解放感なども手伝って，騒がしいまとまりのない時間となりがちである。そうした状況をふまえて，昭和61年度の現職教育で「短学活の運用」についての研究を行い，短学活の意義やねらい等についての共通理解を図り，標準的なパターンを作成した。さらに，昭和62年度には，短学活の公開を中心とする研究により，このパターンに検討を加えて，現在行われている「短学活のプログラム」に発展させた。

短学活をプログラム化したねらいは，生徒による自主的運営を容易にすることにある。さらに，このプログラムを定着させることが，創造的な活動を生み出す素地を作ることでもあると考えたのである。

(イ) 短学活のプログラム

≪朝の短学活≫

8時10分	朝の短学活開始
	(1) 前日の反省を生かして，今日の班目標を決定
	(2) 班目標を短学活記録表に記入
8時15分	(3) 朝のあいさつ
	(4) 保健部による健康観察
	(5) 日直班からの連絡
	(6) 朝学習のプリント配布
8時20分	(7) 朝学習開始
8時30分	(8) 朝学習の答合せ
	○ 疑問解決，わからなかったところを聞き合う。
8時35分	(9) 先生の話
	(10) 朝学習の提出
8時40分	(11) おわりのあいさつ

≪帰りの短学活≫

3時45分 (3時15分)	帰りの短学活開始
	(1) 記録ノートの記入，係からの連絡
3時50分 (3時20分)	(2) 生活バズ
	○ 班目標と生活の反省をする。
	○ 班の反省を短学活記録表に記入する。
	(3) 班の反省を発表
	(4) 司会者が班の反省をまとめ，明日の課題を確認
3時55分 (3時25分)	(5) 復習バズ
	○ 何を課題にするか班で話し合う。
	○ 取り組むことになった教科書などを用意する。
	○ 疑問解決，わからなかったところを聞き合う。
4時05分 (3時35分)	(6) 先生の話
	(7) 家庭学習のプリント配布
4時10分 (3時40分)	(8) おわりのあいさつ

(　　)内はＢ日課の場合

ウ。 復習バズ

(ア) 復習バズのねらい

復習バズとは，授業でわからなかったところを教え合ったり，大切なことを確かめ合ったりする相互活動である。私たちは短学活に復習バズを取り入れることが，学習内容の定着化，学習の意欲化を図ることにつながり，さらに，望ましい人間関係の育成にもつながっていくと考えた。

短学活中における復習バズは，授業中とはおのずから異なった学習活動である。すなわち，子どもの自主的学習活動が，より積極的に展開できる場であり，時間なのである。学級担任が復習バズの充実のために行う指導は，子どもの意欲を高めるための工夫と，復習バズの時間確保のための能率的な運営の工夫に向けられなければならない。

(イ) 復習バズの進め方

復習バズを短学活に取り入れて実践を進めていくなかで，復習バズに取り組ませるのはむずかしいとか，他のプログラムに時間を取られがちになるなどの意見があった。こうした意見を検討していくなかで，教師側に，復習バズをとかくむずかしいもの，高度なものととらえる傾向があることが明らかになった。そこで，「今日の授業で何を学習したのかを確める」といったような，できるところからの出発をまず考えたのである。

復習バズは，班で教科を決めて，お互いに問題を出し合ったり，問題の解き方などを説明し合ったりして進められている。また，学習部の生徒が作成した小テストをもとにして復習バズを行っている学級もある。

エ. 生活バズ

(ア) 短学活と生活指導

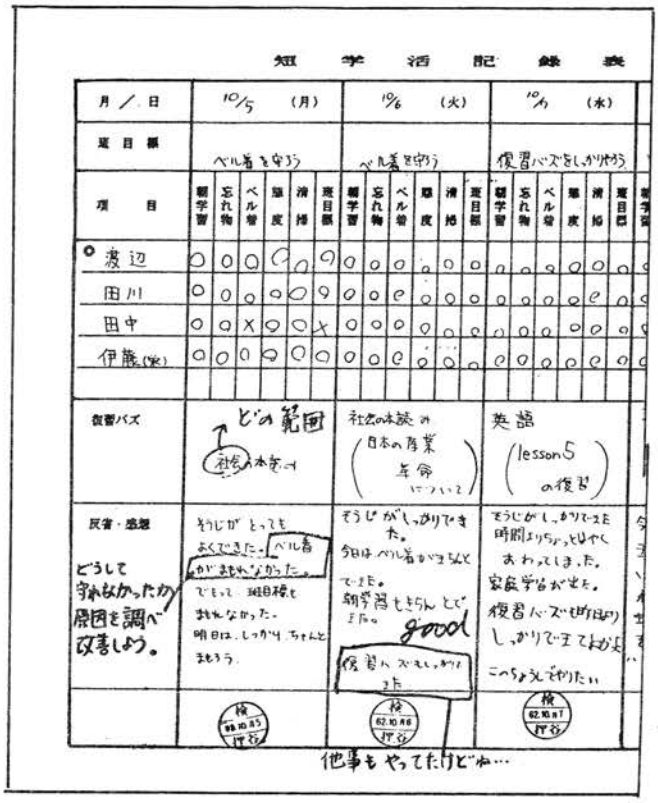
もともと短学活は，学校における基本的な生活指導の場として機能してきた。しかし，それは教師からの一方的な説諭や注意のみで終わってしまうことが多く，大部分の生徒は教師からの指摘を自分の問題としてとらえることは少なかった。このことは，生徒相互の人間関係のひずみから生じることが多い生活上の諸問題を円滑に解決する機会を少なくしていた。

こうした状況を克服する手だての一つとして，私たちは短学活に生活バズを取り入れたのである。一日の生活をもとにした相互活動を行うことは，集団における望ましい人間関係や社会性を育てることにつながり，さらに，集団全体のモラルを高めることにもつながると考えた。今まで「注意しにくかった」「注意されると面白くなかった」ことから，「注意しやすい」「他人の注意を素直に聞ける」という態度への変容が見られつつある。

(イ) 生活バズの進め方

本校の生活バズは，朝の短学活で決めた班目標がどうであったか，ベル着などの学習ルールが守れたか，美化・緑化活動に意欲的に取り組めたかなどを短学活記録表をもとにして話し合っている。

日直班の点検を行っている学級では，日直の点検結果と班の反省を関連させながら話し合っている。



オ. 短学活の公開

各学年3～4学級の短学活を公開し，他学級の担任と生徒代表が参観する。参観する生徒は学級担任が任意に4～5名選ぶが，大体は学級委員など学級の核となる生徒を選ぶことが多い。生徒も参観させるのは，こうした学級間の相互交流が，生徒による短学活の自主的な運営を促進する一つの手だてとなると考えたからである。

参観する生徒は，短学活参観記録表に，短学活の流れ，自分の学級でも取り入れたいこと，改善した方がいいと思ったことなどを記入する。この記録表をもとに，自分の学級で参観結果を発表し，他の学級の短学活の状況を報告する。その後，この記録表は公開学級の学級担任に渡され，短学活の指導改善に役立てられている。

このように短学活公開は，短学活の重要性についての共通理解を深めるためのよい機会となっているばかりではなく，教師には指導力量の向上を，生徒には自主的運営への意欲と自信をもたらしている。

(2) 学級経営の充実

ア. 学級経営とバズ学習

学級経営は，すべての教育活動の基盤であり，出発点である。したがって，学級経営を充実させることは，極めて重要な課題と言える。

学級経営の重点は，学級で行われる教育活動の効果があがるように，学級態勢を整えていくことにある。これを中心的に追求していくのは，言うまでもなく学級担任である。しかし，教科担任もまた自分の授業を通して，必然的に学級経営に関与していくことになるのである。バズ学習によって，その学級や班がもっている特質や問題点は，より一層浮き彫りにされる。したがって，教科担任が授業を通して得た学級の状況は，学級経営へのよき提言となる。そればかりか，授業をしながら，教科担任は学級態勢の指導を直接的にしていることにもなるのである。

このように，バズ学習の導入は，より多くの教師を学級経営へ関与させることとなり，そのことが学級経営の充実につながるものと考える。

イ. 日々の記録

本校では，生徒が毎日記録するものとして，記録ノート，班ノート，学級日誌がある。これらの記録を通して，個人の変容は記録ノートで，班の変容は班ノートで，学級全体の変容は学級日誌で主として把握することができる。

班ノートを学級経営のなかで活用することは，生徒の社会性を高め，望ましい人間関係を育てるうえで有効な手だてとなる。班ノートを通して投げかけられた問題は，個人から班へ，班から学級へと広がり，何人かの班員の意見を吸収して，再び，個人に返ってくる。こうした相互作用を通して，お互いに認め合い，理解し合おうとする態度は着実に育っていく。

学級日誌は，学級全体の一日の様子を把握するものとして重要であるばかりか，学級全体に評価を与えていく場としても重要な意味を持っている。

教師がこれらの生徒の記録に，ひとつひとつ丹念に目を通し，感想や指導すべきことを記入していくことは，時間的にも大変なことである。しかし，こうした教師の激励や評価が，子どもたちの意欲を高めることに結びついていることを考えるとき，決して軽視はできないのである。

ウ. 班長会

(ア) 班長会のねらい

一人ひとりの生徒に「班長となって活動していける力を身につけよう」「班長の仕事を通して人間的に成長していこう」という意欲を育てることは，バズ学習における重要な課題の一つである。また，班長として班をどのようにまとめていくか，班員として班長を支えていくにはどうしたらいいかなど，こうした班活動のあり方を実際的に学ばせていくことも大切なことである。このような班長の意識化・意欲化を含めた班活動の指導は，日常の活動場面のなかで具体的に行うのが最も効果的である。

私たちが班長会を組織したねらいは，日常の班長指導をさらに深めて班長としての自覚を促すことと，学級経営の充実に役立てることにある。班長会で出される各班の問題点や，班長のかかえている悩みに対して，いつもよい解決策が出るとは限らない。しかし，少なくとも，教師がそれらに

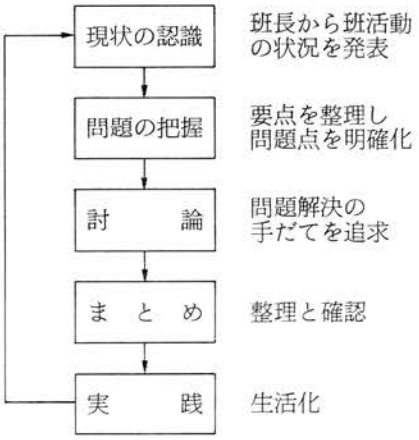
対して共感的な理解を示すことが，教師と生徒とのコミュニケーションのパイプを太くすることにつながると考えている。

班長会は，今年度になって始められ，しかも1学年だけの実践である。したがって，今後さらに実践を積み重ねていきたいと考えている。

(イ) 班長会の運営

班長会は，週1回定期的に継続して行うのを原則とする。会の流れを右図に示す。

構成メンバーは班長，学級委員と学級担任であるが，話し合う内容によっては，関係する係の生徒が加わることもある。



エ. 教室環境の整備

(ア) 整備のねらい

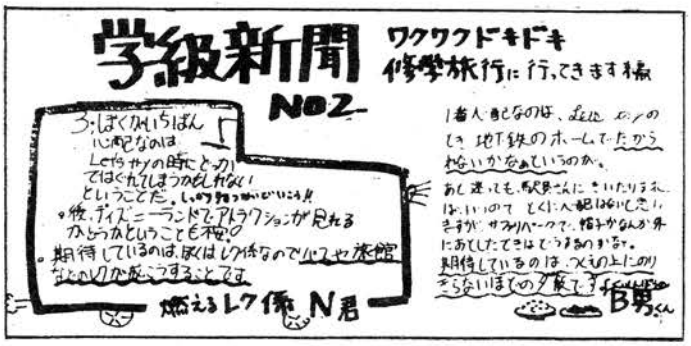
教室環境の整備は，学級経営の重要な課題の一つである。そのねらいは集団への所属感を高め，学習の場として十分活用できるような機能性に富んだ教室環境を作り出すことにある。

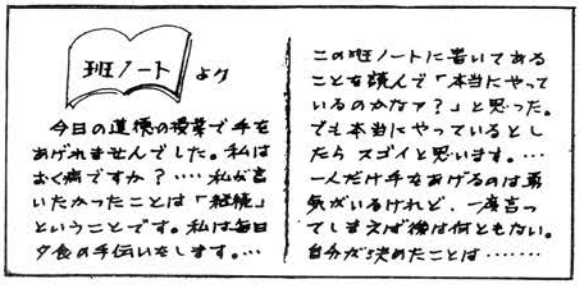
バズ学習を推進するためには，相互活動を活発にするための意図的な環境整備が求められる。そこで私たちは，①学習の能率を高める，②学習意欲を喚起する，③学級の向上への雰囲気を高める，という3点を主眼に置いて，特に，掲示を中心に研究した。しかし，まだその途上にあり，今後解決していかなければならない問題点も多い。

(イ) 掲示の工夫

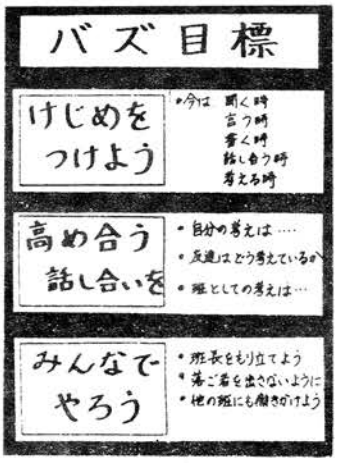
生徒に呼びかける掲示は，古くなり見慣れてしまうと感受性が薄れてくるので，適当な期間で新しいものに取り変える必要がある。この掲示活動を進めるに当たっては，生徒の自主活動を生かすように留意している。生徒が作ったものは，多少稚拙であったとしても，生きた掲示として働きかけるのではないかと考える。次に，今までに掲示されたものを例示する。

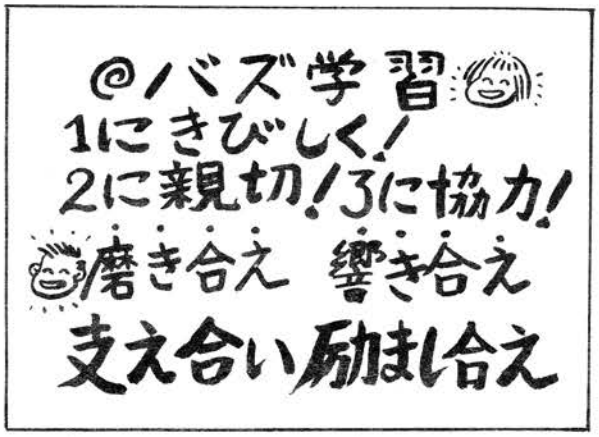
a. 学級の向上への雰囲気を高める掲示

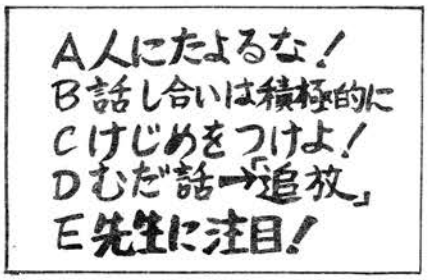


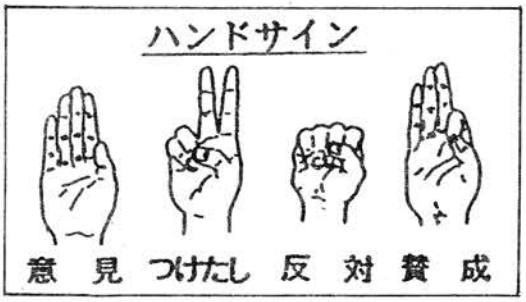


b. 学習の能率や学習意欲を高める掲示









(3) 意欲的な美化・緑化活動やクラブ活動の工夫

ア. 美化・緑化活動

(ア) 美化・緑化時間のパターン化

本校では，「人間のよりよい成長はより良い環境から」という考えをもとに美化・緑化活動に取り組んでおり，特に「“人工のごみ”は見逃さない！」ことを合言葉に環境の美化をすすめている。清掃時間として，月～金曜日は給食後の１５分間，土曜日はＡ裁の２０分間をあてている。Ａ裁とは土曜日の４時限の１１：３５～１１：５５の間に，各委員会及び評議会を行い，それと並行して委員会や評議会に参加しない生徒が区域を分担して責任をもって清掃や緑化活動にあたる時間である。

本校が意欲的に美化・緑化活動を取り組むために行っていることをあげると，

a. 清掃班はバズ班を単位とし，班内でさらに役割分担をし相互点検と協力によって活動を進めている。

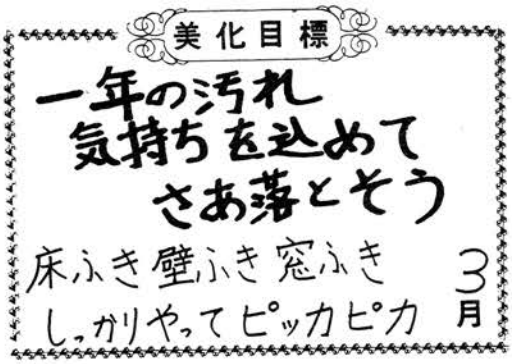
b. 全員が体操服で清掃活動を行っている。

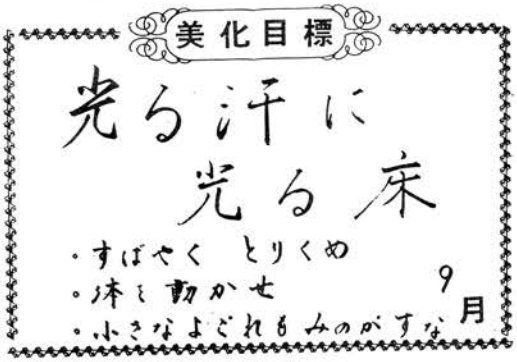
c. 短学活の時間も活用して，明日への取り組みや，やるべき活動を，班や個々の生徒が課題として持つようにしている。

d. 美化委員会は，月別の美化目標を設けている。この目標は，重点的な清掃箇所と，取り組む際の姿勢，いわば態度的な目標の二つが掲げられている。さらに，委員会として点検・評価をしている。

等があげられる。

＜美化目標の実際＞





(イ) 緑化表示板

緑化表示板は学級名と学級の緑化目標をかき，担当の緑化区域に立てる。その目的は，緑化区域を明確にすることと，積極的に緑化活動に取り組む意欲を育てることにある。

もちろん教師が指導しやすい面もあるが，やはり自分たちで自分たちの緑化区域をきれいにしようとする意識・意欲を育てることがその基本となっている。「立て札が泣いていないか？」と常に考えていく機会を与えていくことにより，より良い環境を積極的につくっていってくれることを望んでいる。

(ウ) 夏休みの灌水当番

本校では49,000平方メートルの広い敷地の中に多くの緑化区域をもっており，1・2年の各学級に一つの区域が分担されている。夏休みの間も出校し，竹み一杯の除草と十分な散水を最低限の目標にして，その日に集まったメンバーによって作業分担や作業内容を決定し，除草・散水・樹木の手入れを行っている。

これらの活動は緑を育てるだけでなく，勤労意欲や協力・奉仕の精神を育てる上でも役立っている。

イ. クラブ活動

(ア) クラブ活動・部活動

生徒一人ひとりの人格を尊重するとともに，個性豊かな人間性の育成をめざすことにクラブ活動・部活動のもつねらいがある。ことにクラブ活動・部活動は学年や学級の所属を離れて，興味や関心を同じくする生徒をもって組織することから，人間関係を深めていく貴重な場であるといえる。

本校では，クラブ活動と部活動を一本化するという基本方針で指導にあたっている。クラブ活動の時間は水曜日の6時限目とし，その後部活動へスムーズに移れるよう配慮している。また，全員の生徒が3年間同一のクラブに所属し活動するように指導している。さらにバズ活動を随所に取り入れ，これにより次のような目標の達成をめざしている。

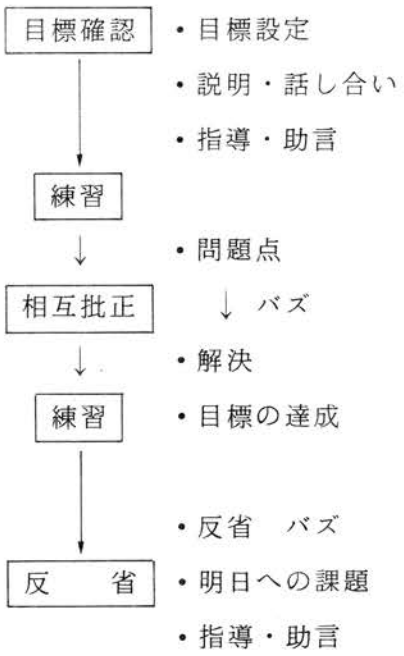
○相互活動を取り入れることによって正しい人間関係を育てる。

○3年間同一のクラブに所属することによって成就感を育てる。

○自発的な楽しい活動を通して一人ひとりの自主性を育てる。

＜クラブ名・参加人数＞

クラブ名	人数	クラブ名	人数	クラブ名	人数
野　球	90	水泳(女)	32	書　道	28
剣道(男)	49	陸上(男)	62	社会科	11
〃 (女)	40	〃 (女)	51	囲碁将棋	20
バスケットボール(男)	57	ハンドボール(男)	41	文　芸	10
〃 (女)	41	〃 (女)	22	写　真	23
テニス(男)	95	ソフトボール(女)	29	演　劇	19
〃 (女)	80	サッカー(男)	79	バトン	26
バレーボール(男)	39	柔道(男)	27	美　術	28
〃 (女)	46	バドミントン	66	園芸技術	5
体操(男)	29	英　語	17	家庭科	29
〃 (女)	41	理　科	26	造　形	17
卓球(男)	52	吹奏楽	116	作　画	29
〃 (女)	11	コーラス	19		
水泳(男)	30	ギター	35		



(イ) 相互活動を生かした実践例

a. ソフトボールクラブ

＜練習前＞

その日の練習内容や重点目標をクラブ員に確認し，それをもとに各自が目標を設定して練習に取り組むようにしている。

＜練習中＞

全体で確認する問題が生じた場合には，集合をし話し合いを中心としたミーティングを持つようにしている。また，練習中においても自主的に相互で批正しあうようにしている。しかし，指導を必要とする場合には直接顧問が説明する。

＜練習後＞

必ず集合して円陣をくみミーティングを持つ。このときはキャプテンを中心に，一人ひとりの反省と，お互いの良かった点，改善すべき点を話し合い明日への練習につなげていくようにしている。

b. 吹奏楽クラブ

練習は，個人練習，パート練習，分奏練習，合奏練習の４種類で構成され，計画的に実施されている。その中で中心的な役割をもっているのがパート練習であり，その推進力になっているのがパートリーダー会である。

＜パート練習＞

楽器別に，八つのパートに別れて，３年生がパートリーダーとなりその日の練習計画から技術指導までを担当する。一般的にはパートで集まって練習するが，必要に応じて個人練習にしたり，２・３人のグループ練習にすることもある。

＜パートリーダー会＞

２・３週間に一度パートリーダー会を持つ。ここで練習の進み具合や問題点を徹底的に話し合い，今後の練習方針や練習計画を立てている。

(4) 自主的な生徒会活動の工夫

ア. 生徒会活動のねらいと指導方針

(ア) ねらい

生徒会活動を通して，集団生活の意義を学ばせ，集団における協調と自己実現を図りながら，成就感を味わわせる。

(イ) 指導方針

a. 生徒の主体的活動を通して，お互いの立場を尊重しながら，連帯感や個々の能力の向上を図り，望ましい人間関係の育成に努める。

b. あらゆる場面において生徒の話し合いを設定し，話し合いによってでたことを吸い上げ実現化することにより，自ら生徒会活動を支えているという意識の高揚を図る。

c. 委員会活動・学級会活動を活発にし，自主的・積極的な責任ある活動の伸長を図るとともに，所属集団の中における存在感の育成を通して，学校生活の充実を図る。

d. 楽しく，規律正しい学校生活の確立に努める。

イ. 自主性を育てる工夫

(ア) 年間計画において

生徒会の年間計画は主に表1に示したとおりである。

これらの行事は，学校から出されている「学校暦」とてらし，前期の場合，生徒会執行部が4月中に立案し，生徒総会にかけられた後実行に移される。これにより，生徒会執行部は，行事の実現化や成功に向けて，生徒の協力が得られたと自信を持つとともに，責任を強く感じるようになっている。また，生徒も自分たちが通した案であることから，協力しようという姿勢が生まれている。

個々の行事についていえば，毎年行っている「1学期の球技大会」「3学期の映画会」は総会時の年間計画には打ち込まず，常に生徒会が生徒の声を聞き，実行する意志があるかどうかを確認し，教師と打ち合せながら行っている。さらに昭和63年度の「スカイアート」の

ように，執行部が実行したいと企画した計画も，取り上げられ実現している。

このように，学級会，評議会，執行部会で広く生徒の意見を吸い上げ実現させる努力をしている。

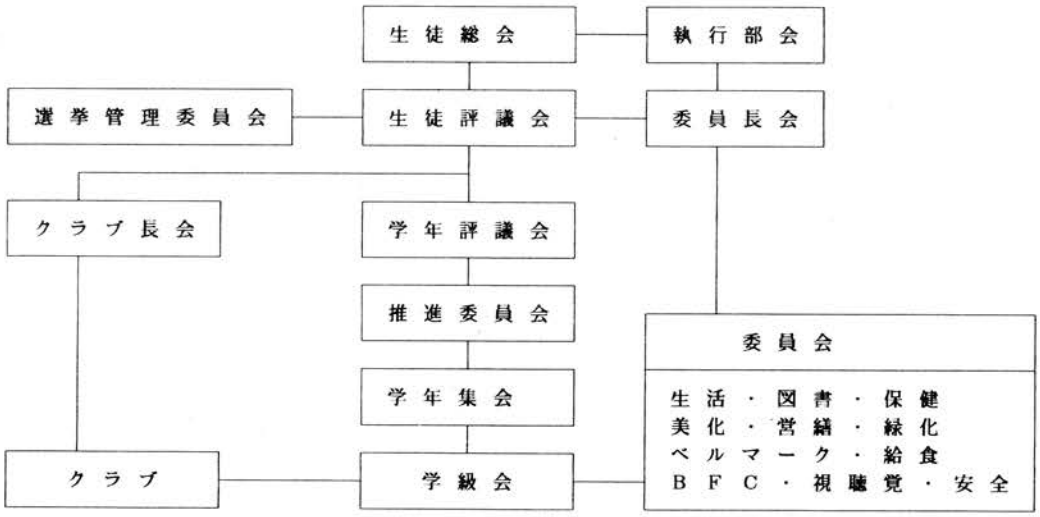
この他にも，「クラブ紹介」「クリーンキャンペーン」（地域美化活動）等のクラブ・委員会と協力した活動や「選手激励会」「卒業生を送る会」のように生徒の様々な工夫を生かした行事を幅広く行っている。

表1　昭和６３年度生徒会年間計画

4月	(離任式)、クラブ紹介、 前期生徒総会、スカイアート
5月	クリーンキャンペーン
7月	選手激励会
9月	大会報告会、(水泳大会)
10月	後期生徒会役員選挙
11月	後期生徒総会 クリーンキャンペーン
3月	卒業生を送る会 64年度前期生徒会役員選挙

(イ)　組織構成において

（組織図）



ねらいの達成のためには，人間関係が重要な要素となる。人間関係を密にし，生徒の生徒会への参加意識・所属意識を高めるため，学級や各種委員会等での話し合いにおいてバズを活用する。

a. 推進委員会

推進委員会とは，生徒会の取り組む球技大会・選手激励会・卒業生を送る会等の行事の企画運営を，執行部・評議員とともに協力しながら推し進める会である。各学級より１～２名，必要に応じて選出し構成する。この方法により，個々の生徒の生徒会活動に対する意識を高め，積極的に参加しようとする姿勢を作るとともに，一人ひとりの生徒の工夫や意見を反映させ，自己実現の機会を増やすようにしている。

b. サポートクラス

サポートクラスとは，組織図には表れてはいないが，委員会活動を少しでも活性化するためと，多くの生徒を生徒会活動に積極的に参加させるために考えられたものである。収集活動・あいさつキャンペーン等，委員会が中心になって行ってきた活動を，希望学級が受け持ち，学級の独自性や創意を生かしてその活動の推進を図っている。

ウ. 活動の実際

(ア) 各種行事

a. 球技大会

球技大会は，学年単位で推進委員を中心に，男子用・女子用・混合用の三つの種目の選定や人数の割り振りが考えられ，６月に行われた。本年度は１～３年まで共通の種目を一つ取り入れることとなり，最近人気のある綱引きを行った。

b. 選手激励会

７月に行われた選手激励会は，執行部を中心に推進委員が案を練り，「聖火ランナーを登場させること」「２年生で応援団を組織すること」「選手に，はちまきと必勝うちわを贈ること」が決められた。はちまきやうちわは，１・２年の学級に分担がなされた。今年度は，あいにく当日雨となってしまい体育館で行うこととなったが，会は盛りあがりをみせた。

c. 水泳大会

水泳大会は体育的行事であり体育科の教師を中心に行われるが，推進委員が選手決め，レクリエーション種目の選定，当日の運営等幅広く活動する。「フライングマン」（選手がフライングなのに泳ぎ続けようとするのをやめさせる役目）は推進委員が考え出したユニークなアイデアの一つである。

(イ) 収集活動

地域の美化・生徒会資金の確保・生徒会や学級への所属意識の高揚のため，年度毎に目標量や収集方法を決め，アルミ缶・古新聞・ベルマークの収集活動に取り組んでいる。

a. アルミ缶収集

ドラム缶に美化委員がペンキで着色した「アルミ缶ボックス」を各昇降口に設置し，いつでも気軽にアルミ缶が収集できるようにした。夏場には，5日ほどで4本のアルミ缶ボックスがいっぱいとなり執行部とサポートクラスの手で回収された。

b. 新聞収集

月に1回1週間の期間行う。1学期には「全校で100メートルの高さ分の量を今学期中に集める」という目標を立てたが，地域の子供会の廃品回収と重なり，目標の4割弱の達成率に留まった。

c. ベルマーク収集

ベルマーク収集は，ベルマーク委員を中心に目標が決められ，評議会で審議された上で学級におろされ，キャンペーン活動が展開されている。現在は，総会で意見として出された合唱コンクールで使用するラジカセの購入を目標に取り組んでいる。

これらの取り組みを通して，多くの場面で生徒自身が活躍するようになった。それにともない責任感・連帯感が生まれ，生徒の生き生きとした表情がより一層多く見られるようになってきた。

(5) 自主的に取り組む旅行的行事の工夫

ア. 「集団の自主性」を育てるために

「自主性」という言葉は，本来個人について用いられることが多いが，私たちは「集団の自主性」というものをより尊重したいと考えた。

これは，「自主性」が「社会性」とともに語られなければならないのに，「自主性」だけが独り歩きし，「自分勝手を許す」というような結果になり易かったという反省に基づいている。ある集団が何か一つの目標に向かって自ら動き出すとき「社会性」が必要となり，その中で，個人の「自主性」も育てられやすいと考えたのである。また，そこに「集団で行う教育」や「旅行的行事」を行う一つの意義があると思ったのである。指導にあたっては，「集団の自主性」を育てるため，次の八つの点に留意することにした。

① 集団は最初「寄せ集め」であることを心に止め，教師も含め「人間関係づくり」「雰囲気づくり」を大切にすること。（バズの活用）

② 「寄せ集め」の集団に「協力せよ」といっても急には協力できない。「協力せよ」と言うのではなく，具体的な課題を与え，それを解決しようとする行動の中で協力性を育てていくこと。（図１）

③ 課題に向かって集団員が最初はほぼ同じ方向を向いていても，だんだんと方向がずれてきてしまうことがある。（図２） そのため，意見のまとめ役・調整役・牽引役としてのリーダーが必要でありかつ重要である。このことを集団員全員が意識し，自分たちのリーダーをもり立てていこうとするよう「雰囲気づくり」をすること。

④ 根幹となる目標に「人間性向上」を置く。各行事における課題は，最終目標ではなく，一つの通過点・ステップととらえること。

⑤ 根幹となる目標を中心に，１年間を１サイクルととらえ，各行事において目標（課題）を明確に打ち出すとともに，３年間をその積み重ねととらえた系統だった螺旋構造的な指導を行うこと。（表1，図3）

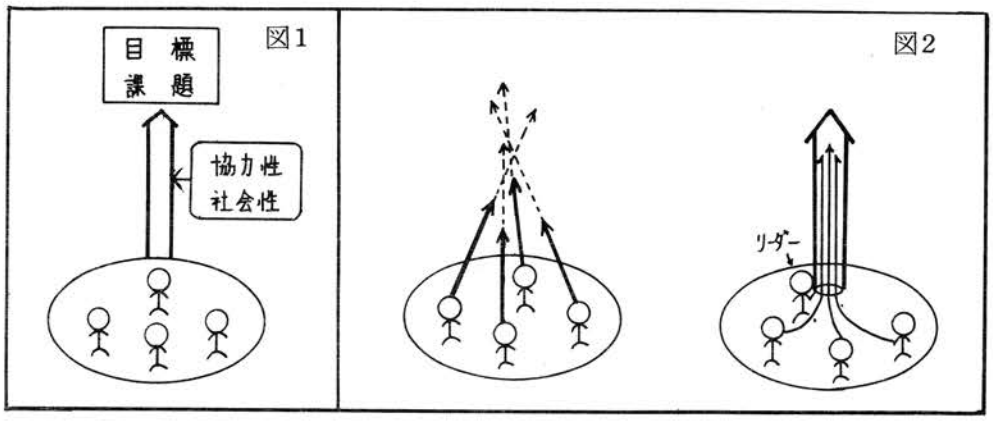
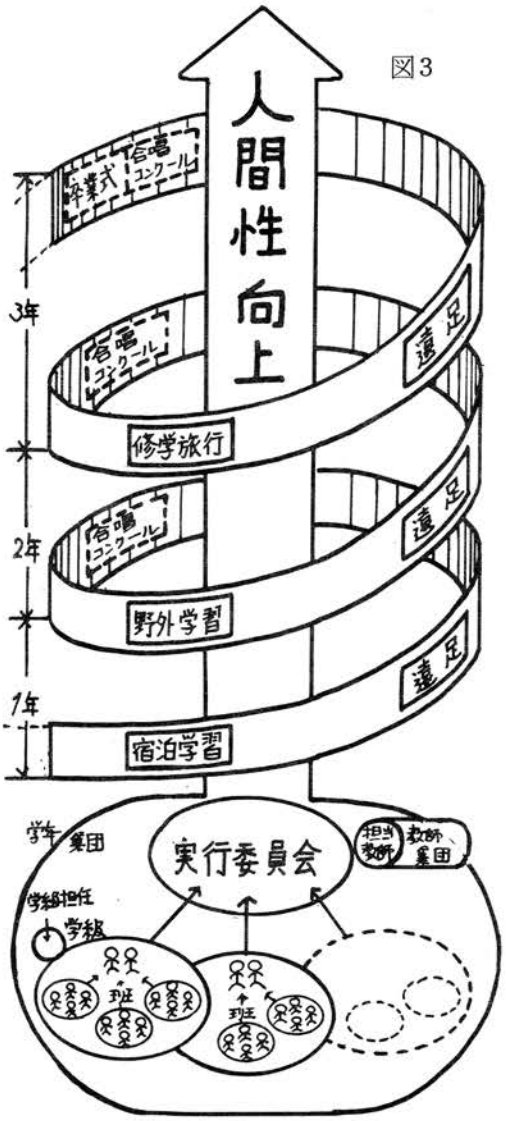


表1　3年間の集団への指導目標
（昭和60年度 1年時にたてたもの）

	集団への指導目標	リーダー育成のために	
3年	① 集団の質の向上やめざす「人間性」を求め，自ら創造した課題を解決させる。 ② 集団のルールを自ら設定させる。	・ 行事を企画・運営させる。	生徒主動型
2年	① 集団に与えられた課題を各個人の課題としてとらえさせる。 ② 同一課題の解決に向けその方法を組みたてさせる。 ③ 各個人の役割遂行の重要さを感じとらせる。 ④ 自己規定を設定し，それを守る意志を育成する。 ⑤ 成就感を確実に味わわせる。	・ 行事を運営させる	↑
1年	① 生徒と生徒・生徒と教師の間に信頼関係を築く。 ② めざす「人間性」を共有させる。 ③ 同一方向をめざし，集団で行動することの重要さと良さを感じとらせる。 ④ 集団ルールの重要さを認識させる。 ⑤ 指示を確実にきき，従おうとすることの大切さを認識させる。 ⑥ 雰囲気をもりたてることの大切さを感じとらせる。 ⑦ 課題解決の成就感を味わわせる。	・ 実行委員としての自覚をもたせる。 ・ 行事の企画の仕方・運営の方法を学ばせる。 ・ 指示を班・学級に徹底させる。	教師主導型



⑥　集団の所属意識を高めるため，行事等の実行に当たっては，内容に工夫をこらし，特色を出し，プライドをもたせるようにすること。

⑦　１年生は３年間の基礎となる時期である。この時期に「何が大切か」を教えるとともに，自らも感じ取らせ，教師との価値観の共有を目指すこと。

⑧　教師の意図が生徒に伝わるように，生徒との温かい信頼関係を大切にすること。また，生徒集団と教師集団が協力して学級・学年・学校を築いているととらえさせるため，教師も生徒と一緒になって生き生きと行事に取り組むこと。

ｲ．指導の実際

次に述べる行事は，各学級から選出された１～２名で構成する実行委員会を中心に活動している。

また，宿泊を伴う旅行的行事では，意義・目的・スローガンを打ち込んだ「しおり」を作り，その徹底に努めている。

(ｱ)　宿泊学習

１年生のはじめに，市内の「少年自然の家」を使い，１泊２日の日程でＡ班Ｂ班に分かれて行う。一切の行動は，班長が持つ時計としおりの日程表により行い，館内放送は使用しない。

「宿泊学習」とあるように，「学習」であることを前面に出し，集団行動・レクリエーション指導・合唱指導を行い，中部中学校の１年間の大まかな流れを知らせ，本校の生徒としての自覚をうながしている。

集団行動においては，指導者（リーダー）の指示に従うことや規律を守ることに重点を置き指導している。

レクリエーション指導については，雰囲気の大切さや物事に一生懸命打ち込むことの重要さに力点を置き，雰囲気をもり上げるということはどういうことかとらえさせることに努めている。

１年生の段階では，リーダー・班長に対して，教師からの指示と連絡事項の徹底といった伝達的役割をあえて強く持たせている。

(イ) 野外学習

２年生の６月ごろ，「愛知県民の森」において２泊３日の野外テント生活を行う。

主なプログラムは，飯盒炊さん・キャンプファイヤー・ハイキング・学級レクリエーションであり，生徒自らが積極的に行事に参加できるように様々な工夫をしている。当然ながら最も重要なのが事前の取り組みである。

飯盒炊さんは夕食時に行われ，自由献立となっている。そのため班ごとに，献立やその作り方を調べること，材料を買いに行くこと等，様々な取り組みが行われる。

ハイキングは従来のコースも含め，「釣りコース」「温泉コース」等バラエティーに富んだコースを設定し，各個人に選択させている。

キャンプファイヤーでも工夫がされている。自分たちの「野外学習」であるという意識を高めるため，エールマスター・サブマスターを生徒で編成し，上級生が自発的に部活終了後その指導にあたっている。

このような取り組みを通して，「行事は自らもり立てていくのだ」という気持ちを育てている。

(ウ) 修学旅行

３年生で行う修学旅行の最大の目玉は，「東京都内班別行動」である。約半日，東京都内を班ごとに，自分たちの設定した見学地をまわり，旅館にもどってくるというものである。途中，５箇所程設けられた「チェックポイント」のうち１箇所を通過することになっている。

見学時間や行きたい所の個人的思惑が絡み合い，事前の話し合いが活発に行われる。また，旅行社の方と班員で計画の検討をしているが，当日その通りにいかなくなったり，ハプニングに出あったりといったことが起こり，その度に解決のための努力がなされる。

この様に修学旅行は，各個人の葛藤や各自に切迫した課題があるとともに，人間関係の大切さを学ぶ要素も多くあり，人間的成長を図る貴重な機会である。

(エ) 遠足

1学期に行われた宿泊を伴う旅行のでき，2学期の生徒の状態により，補正的，フィードバック的な要素をもたせている行事である。また，宿泊を伴う行事にくらべ，学年の特色がよく出せる行事である。

1年生は大凧で有名な静岡県の「中田島砂丘」に行っている。大凧の揚がる様子を見学したり，班ごとに制作した凧を揚げたりする等の企画を立てて取り組んでいる。昨年は砂丘に注目し，「砂の芸術」に取り組んだ。

2年生は岐阜県関市や愛知県知多郡南知多町にあるフィールドアスレチックに行っている。「とにかく動け，迷っても動け，やったら喜べ」などといったスローガンのもと，中だるみの学年と言われることを吹き飛ばすべく，巨大迷路・カラオケ大会・縄跳び大会・座禅等，年度毎に工夫されたイベントが行われている。今年は修学旅行の準備も兼ね，「岐阜市内班別行動」が企画されている。

3年生は旧中仙道の「妻籠・馬籠」へ行っている。歴史に親しむ意味を含め，わらじを履いて行ったり，班ごとに「水戸黄門衆」「白虎隊」等とテーマを決め，時代的衣裳を作り，それを着て歩く等の試みがされている。

今まで述べてきた行事においては，バズを活用し，実行委員・学級の班を中心に行ってきた。

これらの行事活動は，生徒たちに通常の生活では体験しにくいことを経験する機会を与え，生徒と生徒，生徒と教師の間の人間関係に深まりを与えるとともに，「自主性」「社会性」を培うよい機会となっている。

3. 道徳的心情や実践意欲を高める指導を目指して

(1) 基本的な考え方

ア. 道徳における相互活動

道徳の時間では，資料を媒体として，生徒がそれぞれの生活経験をもとに思考し，互いに話し合うことによって，道徳的価値を自覚し，道徳的実践力を身につけることをねらいとしている。

これまでの道徳の授業を振り返ると，本校の生徒は，自分の考えを語りたがらない傾向が強い。活気のなさが深まりのなさにつながることのないよう，バズの形態を取り入れることによって，本音を出しやすい雰囲気を作り，参加度を高めたいと考えた。全体の場では発言できない生徒にも話す機会が与えられ，また，安易に整理されてしまいがちな少数意見も尊重されることが期待できる。

このような生徒相互の話し合いは，理解・思考を深め，判断を的確にさせるうえで効果的である。さらに，生徒相互の協力や人間関係を深め，学級全体の道徳的実践力の水準をも高めることにつながる。

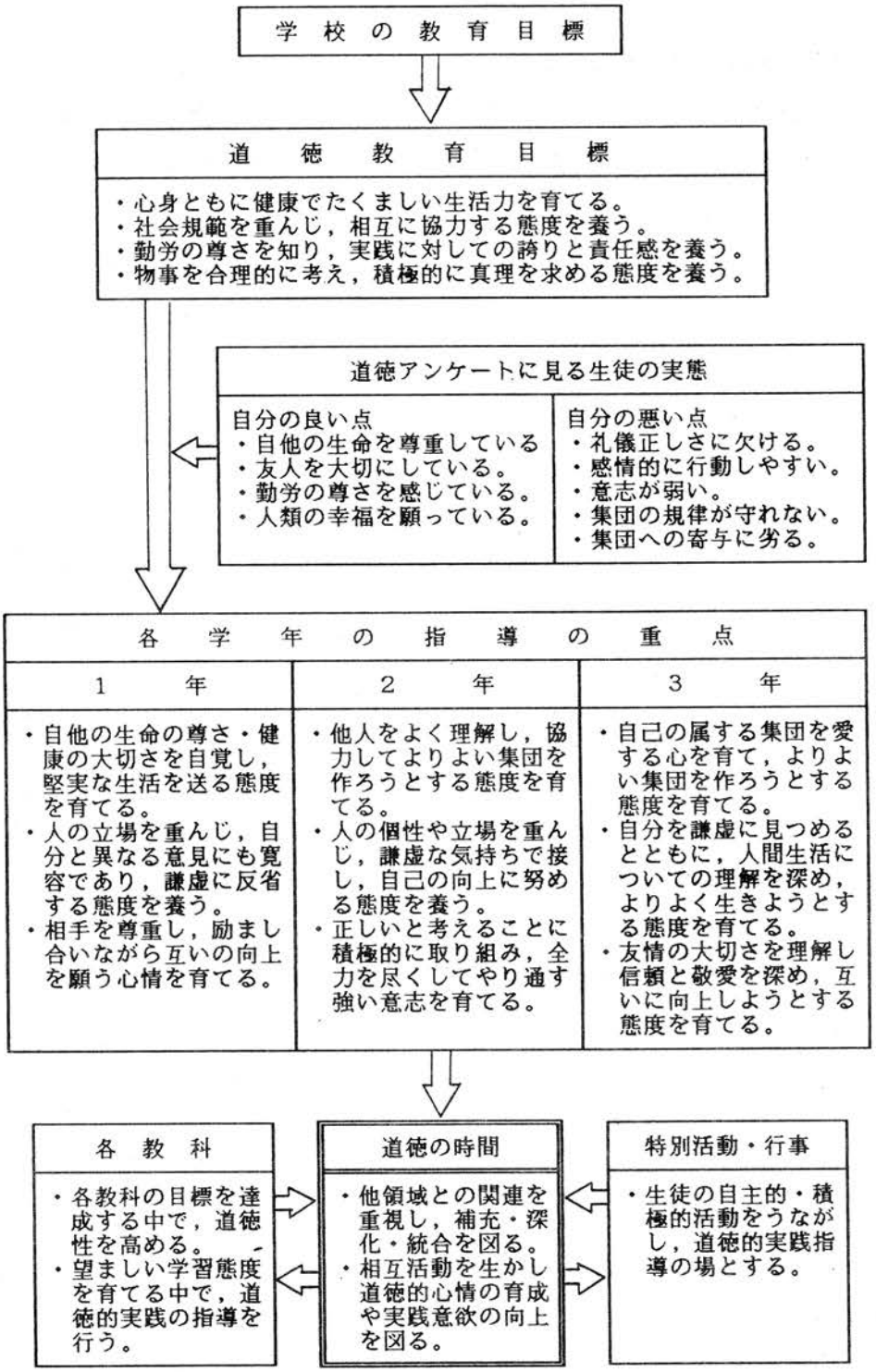
イ. 参加度を高めるための工夫

生徒は，相互活動を通して，様々な価値観に触れることができ，そのことは，自分自身や相互間に葛藤をもたらす。その作用は，生徒一人ひとりの持つ価値観をより明確にし，他の価値観に対する理解を深めさせ，より高いものへと変容させていく。

そこで，授業の展開にあたっては，生徒の参加度を高めるために，問題意識を持たせることができ，多様な価値観を引き出すことができる資料を選択・活用し，それを十分に生かした効果的な発問の工夫に努めることが大切である。そのことが授業を活性化し，さらに，ねらいとする道徳的価値を生徒に自覚させることになると考えた。

以上の点を踏まえ，多様な授業展開の研究を進めることにした。

(2) 全体指導計画


学校の教育目標
道徳教育目標
・心身ともに健康でたくましい生活力を育てる。
・社会規範を重んじ，相互に協力する態度を養う。
・勤労の尊さを知り，実践に対しての誇りと責任感を養う。
・物事を合理的に考え，積極的に真理を求める態度を養う。
道徳アンケートに見る生徒の実態
自分の良い点
・自他の生命を尊重している
・友人を大切にしている。
・勤労の尊さを感じている。
・人類の幸福を願っている。
自分の悪い点
・礼儀正しさに欠ける。
・感情的に行動しやすい。
・意志が弱い。
・集団の規律が守れない。
・集団への寄与に劣る。
各学年の指導の重点
1年
・自他の生命の尊さ・健康の大切さを自覚し，堅実な生活を送る態度を育てる。
・人の立場を重んじ，自分と異なる意見にも寛容であり，謙虚に反省する態度を養う。
・相手を尊重し，励まし合いながら互いの向上を願う心情を育てる。
2年
・他人をよく理解し，協力してよりよい集団を作ろうとする態度を育てる。
・人の個性や立場を重んじ，謙虚な気持ちで接し，自己の向上に努める態度を養う。
・正しいと考えることに積極的に取り組み，全力を尽くしてやり通す強い意志を育てる。
3年
・自己の属する集団を愛する心を育て，よりよい集団を作ろうとする態度を育てる。
・自分を謙虚に見つめるとともに，人間生活についての理解を深め，よりよく生きようとする態度を育てる。
・友情の大切さを理解し信頼と敬愛を深め，互いに向上しようとする態度を育てる。
各教科
・各教科の目標を達成する中で，道徳性を高める。
・望ましい学習態度を育てる中で，道徳的実践の指導を行う。
道徳の時間
・他領域との関連を重視し，補充・深化・統合を図る。
・相互活動を生かし道徳的心情の育成や実践意欲の向上を図る。
特別活動・行事
・生徒の自主的・積極的活動をうながし，道徳的実践指導の場とする。

(3) 相互作用を生かした指導の実際

ア. 生徒作文を使った授業実践（２学年）

主　題　　友情（１０．友情）

ねらい　　互いの向上のために，励まし合い忠告し合う望ましい友人関係を築いていこうとする気持ちを高める。

資　料　　生徒作文

＜授業記録＞

展　開　（△：発問）	教師・生徒の活動の様子
友だちがいてよかったと思った経験を発表しなさい。	
１．本時のねらいを知る。 △　今までに友だちがいてよかったと思ったことを発表しなさい。	・　問題意識が高まらず，私語が多い。 ・　班で話し合い，班長が集約して発表する。
２．友だちの励ましに対する感謝の気持ちを知る。 △　Ａ子さんの作文を聞きなさい。	・　Ａ子は涙で声が出ず，他の生徒も問題を意識し始める。
友情を育てるにはどうしたらよいか考えなさい。	
３．友情を否定する考えを知る。 △　次の作文を聞いて，班で話し合いなさい。 △　発表しなさい。	・　「友情は見せかけである。」というＢ子の作文を教師が代読する。 ・　私語が多いが，次第に話し合いが始まる。 ・　「それは間違っている。」「友情という言葉が好きだ。」などの意見が出る。
４．友情について悩む考えを知り，真の友情の意味を考える。 ▲　見せかけでない本当の友情とは何か考えなさい。 △　Ｃ男君の作文を聞いて，班で話し合いなさい。 △　発表しなさい。 ▲　本当の友情とは何だろうか，また，どうしたら育てられると思うか，考えなさい。	・　「一緒に掃除をさぼるようなことが本当の友情なのか。」という教師の問いかけに，静かに考え始める。 ・　一年間の学級の姿勢を鋭く批判した内容を真剣に聞く。 ・　活発に話し合う。 ・　教師は机間巡視をして個人の考えを把握する。 ・　「あと数日だが，まだ遅くない。」「最高のクラスにしたい。」「この授業だけで良くなるとは思わない。」など，涙ながらに訴える意見もあり，お互いの意見を真剣に聞く。 ・　活発に話し合い，「誰とでも仲良くする。」「いいところを見つける。」などの意見が出る。 ・　Ｂ子の作文中の「自分を磨く」という文を取り上げ，教師の意見を述べる。
友だちへの感謝の気持ちを伝えなさい。	
５．一年間自分を支えてくれた友だちへの感謝の気持ちを発表する。 △　作文を読んで，気持ちを伝えてください。	・　「自分の性格を直したい。」「自分の失敗を許してくれてありがとう。」という作文を発表する。 ・　一人の男子からエールをやりたいという申し出があり，照れながらも全員答える。

＜考察＞

事前に「友情」というテーマで作文を書かせることで，生徒に問題意識を持たせて授業に臨ませることができた。

この授業では，３点の生徒作文を資料として用い，生徒の心情を高めるうえで効果的であった。

なかでも，Ｃ男の作文は真の友情を問う中心発問の場面に適切で，生徒相互に問題を投げかけるものであった。涙ながらに訴える女子生徒の意見に対し，徐々に問題意識が高まり，班での話し合いが深まっていった。

また，「ぜひ，みんなの意見を聞きたい。」という教師の言葉に生徒の心

が開き，素直な意見が出され，活発な話し合いができた。

学年末の授業でもあり，生徒には切実なテーマとして受け止められた。数日後に行われた「学級お別れ会」では，これまで身勝手な行動の目立った女子生徒たちが中心になって企画や運営にあたるなど，実践化につながったようである。

授業展開の面から見ると，終末の段階で価値を一般化する読み物や格言等を与え，価値把握を図る方法も考えられる。

お見舞いに来てくれた皆さんへ　　A子

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・でも、歩けるようになって、TE

Lできるようになったら、みんなの声を、聞

くだけで、すっごい、なつかしくなっちゃっ

たり・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・みんなが、寒い中、

見舞いに、来てくれてから、私のはげみにも

なって、毎日が、とても楽しくなったように

思う。ほんと、うれしかったよ。

ほんとに、ほんとに　ありがとう

友情　　B子

「友情」なんて言葉大嫌いです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

みんな自分がはいあがろうとして友達を利用

してるだけ。・・・・・・・・・・・・・・

一緒にいて楽しいだけが友情なんかじゃない

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

いや私だけではない。多分このクラスのみん

な本当の友情は知らない。

みせかけのきれいごとをいってるだけ。

・・・本当の友情が知りたい。・・・・・・

そのためにも自分をみがかなきゃいかん。・・

クラスのみんなごめんなさい　　C男

僕は今まで十四年間生きてきて、一人も親

友だの友情だのいうものを感じたのはなかっ

たように思う。中学校に入っても一度もそん

な友はなかった。僕は親友というのは悲しい

時には横にいてくれて、うれしい時には一緒

にいてくれて、悪いことをしている時は、大

声で注意してくれるような、そんなものだと

思っている。残念ながら、このクラスにはそ

んな人はいなかった。いじめもあったし、う

るさくて注意されっぱなしだった。・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

僕たちのクラスの中に苦しみを味わって生ま

れた楽しみがあったのか、・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

親友が作れなかったのも、僕の性格に問題が

あったのだろう。・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

イ．アンケートと読み物を使った授業実践（2学年）

主　題　　欠席（3.　強い意志）

ねらい　　「休みたい」と思う心の弱さを律し，意欲的に学校生活を送ろうとする態度を育てる。

資　料　　アンケート　読み物「鉄人－衣笠祥雄40歳の記録」

＜考察＞

この授業は，学校が抱えている問題を取り上げ，道徳的判断力を高めるとともに，互いを思いやることで，実践意欲の向上をねらったものである。

＜授業記録＞

展　開　（△：発問）	教師・生徒の活動の様子
「９０日」これはどんな事実を表した日数か発表しなさい。	
１．何を意味している日数かを考える。 △　９０日とは何を表していると思うか発表しなさい。	・　興味を持ち，活発に発表する。 ・　「クラスの１学期間の欠席日数」と知らされ，驚きの声が上がる。
２．本時のねらいを知る。	
学校を休みたいと思っても，休まないのはなぜか考えなさい。	
３．学校を休まない理由を考える。	
△　アンケートの結果を見て，思ったことを発表しなさい。	・　最初に指名された生徒は，質問の意図がわからないのか答えられない。 ・　「行きたくない人が意外に多い。」という意見から次の発問につなげる。
▲　行きたくないと思うのに，なぜ学校に来るのか考えなさい。	・　発言が少ないので，班で話し合うように指示する。 ・　机間巡視をして，生徒の考えを把握する。 ・　指名して，発表させる。 ・　「一度休むとそれが続くようになる。」「親がうるさい。」「勉強が遅れる。」など多くの意見が出る。
４．衣笠選手が世界記録を達成するまでの心の動きについて話し合う。	
△　資料を読みなさい。	・　教師が範読する。
△　出場したくない時にもなぜ出場したのだろう。資料で確認しなさい。	・　理由を表す箇所に線を引くように指示する。 ・　机間巡視をして，不十分な点を指摘する。
▲　休んでいたら彼の野球人生はどうなっていたかを話し合いなさい。	・　輪番法で話し合うように指示したので，活発に発言する。 ・　「嫌なことがあるとすぐ休むようになる。」「自分の存在がなくなる。」「早く引退してしまっただろう。」などの意見が出る。
今日の授業で学んだことを書きなさい。	
５．自分の考えをまとめる。 △　自分はこれからどうあるべきか，今日の授業を通して考えたことを書きなさい。	・　「記録ノート」に書くように指示する。 ・　現在の自分と照らし合わせながら，授業の感想や欠席に対する考え・学校生活の送り方等について書いている。

中心資料として「欠席に対する意識」を調査した事前アンケート結果を用い，自分たちのものの見方・考え方を見つめさせ，身近な問題としての意識を持たせるのに役立った。また，読み物は，アンケート結果から把握した道徳的価値の一般化を助ける資料として活用された。これらの資料を生かして，「衣笠選手」に対する共感を自分の生活に置き換えて一般化する授業展開ができた。

話し合いの場面では，教師が机間巡視をして生徒の考えを把握することで，意図的に指名をし，発表させた。

二つの実践例では，身近な問題を扱うことで相互活動が活発になり，生徒の問題意識を高めることができた。今後は，じっくり読み味わう心情資料を扱った場合等を含め，多様な展開を工夫し，授業の活性化を図っていきたいと考えている。さらに，道徳授業の充実のために，学級活動や行事の中で評価活動を行い，生活バズの中で意図的に個人に返し，積み上げていく事後指導も考えていきたい。

Ⅴ　まとめと今後の課題

教師の共通理解にたち「バズ学習」の研究に取り組んで，４年目に入った。

私たちの実践は，一つには生徒たちに全力をあげて学習に取り組むことの大切さを教えることであり，もう一つには協力し成就することのすばらしさを体験させることであった。その歩みは決して平たんなものではなく，つぎつぎに対処しなければならない問題に直面した。しかし，その問題解決への努力が研究をわずかながらでも深めていくことにつながった。

目をみはるような成果はなかなか見えてこないが，私たちはこの研究を通して，日常の地道な実践の大切さをより強く感じた。

これから取り組まなければならない問題も山積しているが，今後は，次の点を課題として研究の継続・深化を図っていきたい。

1. 日常の基礎的・基本的なことを大切にし，教育活動の積み上げを図る。
2. 授業研究を柱に，教科間・学年間の交流を一層進め，指導技量を高める。
3. 学習課題構成図を生かして，学習課題，学習活動，評価等のあり方について，さらに研究を深める。
4. 自己評価・相互評価や教師の評価活動の方法を工夫し，より確かなものにする。
5. 復習バズ・生活バズの実践を積み重ね，短学活の自主的運営をさらに進める。
6. 美化・緑化活動の意識を高め，相互評価活動を徹底する。
7. 常に課題をもち，自ら進んで活動をしていこうとする態度を育成する。
8. 行事等で得た成就感を日常生活に反映させ，学校生活の充実を図る。
9. 道徳授業の充実を図り，教育活動の中での評価活動を計画的に行い，道徳的実践力を高める。

Ⅵ　バズ学習の困難点や問題点の解明

1.　授業の進度が遅れるのではないか

その最も大きなものは教師自身からおこる問題であろう。学習はすべて話し合いによって進めるべきだと勘違いされて，あらゆる学習事項にバズが乱用されていることがある。そして教材研究も不十分なまま，どこでバズさせるかという位置づけがなされぬまま，思いつきで授業を進めることも多い。

教えこむことと話し合わせることの区別，目標に合った課題の配列が何より肝心であろう。そして，教材や課題の精選が必要なことはいうまでもない。目標に合った一時間の指導計画が教師の手中になければならない。

次に考えられることは，学級や生徒たち自身の問題である。自由なコミュニケーションが活発に行われるような学級に成熟していなかったり，バズの要領に不慣れで，なかなか話し合いの実らない場合が考えられる。

また，課題が不適当な場合にも話し合いの進展しないことがあるので，いつもその原因を多角的に探る必要があるだろう。

そして私たちは，すべての分団やすべての個人に結論を期待し過ぎてもいけないだろう。バズの後には，必ず教師による補足・修正・まとめのあることを忘れたくはない。話し合いで，たとえ結論が出なくても，結論に近づくか，思考に方向性が出てくるだけでも，目的のほとんどは達せられたことになる。

「２分」とか「３分」というように，短かめな時間を予告して話し合わせると能率的になろう。

2.　優秀生の学力は足踏み状態になるのではないか

足踏みということはない。実際バズ学習をやってみればわかることだが，教えられる者より教える者の方の伸びが大きい。これはいくつかの実践校で検証されている。

わかったつもりのことでも，教えてみる（説明してみる）ことによって，不確かな点に気づくことが多い。ひとりではわからないことが，相手によって自ら発見できるのである。繰り返すことによって理解がいっそう深められ，整理され，確かなものになるから，得をしているのは成績不振生徒より優秀生徒であるといえる。

それに，課題は学習目標に合ったものであり，課題が達成されることによって，目標とされる知識・技能が得られるのであるから，それ以上を望むのはいささか欲張りではなかろうか。課題を通して，それぞれの能力に応じてみんなを学習活動に積極的に参加させ，少くとも，目標にまで到達させたいというのがバズ学習のねらいである。

もし，班の活動が個人の力を押さえているということになれば，個人の力が発揮できる場が忘れられていはしないだろうか。バズ学習では，班での話し合いの後，学級全体での話し合いも重要視しているのである。

3. 依頼心が助長され，個人思考が深まらないのではないか

「まず，自分で考える」という鉄則が忘れられてはならない。課題を投げかけられたら，まず自分で取り組み，分ることと分らないことをはっきりさせ，あるいは，自分の考えをもって話し合いにはいらせたい。漠然と聞くのではなく，何の，どこを聞くのかを明確にし，自分はこう思うがどうなのか，という姿勢をもたせたい。

習慣化するまで，ブレーンストンミング方式（それぞれ自分の意見を述べるだけ）を使って訓練するのもよいし，教師が話し合いの指示をするまで各自で考えさせるような配慮もよいであろう。

また，集団が単なる仲よし的なものでなく，互いにきびしさをもった人間関係を保つように，そういう仲間づくりをする努力も必要であろう。

4. むだ話が多くなったり，さわがしくなりがちだが，どうしたらよいか

教師が学級を把握していなければならないことは当然だが，やはり相互

のきびしさが必要であろう。また，相互作用をさせるときの約束や，話し合いのきまりが徹底されるべきである。それらは最低必要なものからスタートし，順次細かなことや，レベルの高いものをつけ加えていくとよい。

「だれかが発言している時には静かに聞こう。」

「学習に関係のないことは話さないようにしよう。」

「先生が，やめ，といったら前を向こう。」

たったこれだけのことでも徹底できたら学級は変ってくるだろう。そして，話すこと以上に，聞くことの大切さも理解させたい。

バズのタイミングが悪かったり，課題が不明確であったり，話し合いの時間が長すぎる場合にもさわがしくなるものである。十分意に留めていきたい。

要は，少々にぎやかでも，それが目標に沿った話し合いであるかどうかが問題である。必要以上の声量を押さえるしつけは随時していかなければならないだろうが。

【研究同人】

≪昭和63年度≫

荻原克巳	阿部吉一	寺井正輝	鈴木　収	高木昭子	石黒治子
武山春雄	稲垣久義	吉田英雄	小原澄子	桑原進一	後藤文子
高島　顕	林　　薫	野口博昭	西田真寿美	久田律子	小森好治
安藤研彦	松本幸子	舟橋祥子	藤城吉雄	加藤武文	西村典子
居波丈義	藤田　滋	市原みどり	長尾　智	沢田由道	立島雅代
伊藤　彰	児玉　誠	鈴木直子	久保達哉	伊藤富男	中山喜久子
加藤美紀子	中田博之	毛利　公	石黒照人	片山　豊	小林千益
吉田　真	桜井雅弘	山本義則	竹田幸代	川越慎一	川本芳久
押谷政紀	伊藤直美	本田直樹	高津卓史	岸　宏行	小林　真
森真一郎	山内良仁	藤田二三代	林　真樹	渡辺敦子	久木田まゆみ
竹内　和	蛯名幹史	竹内正夫	稲垣淳代	河合　幸	

≪昭和62年度≫ 転退職者

奥村艶子	沢木　博	森脇久仁子	石川英生	原田隆弘	村上しのぶ
野田豊成	木塚　茂	並木裕代	梶田久忠	高木勉子	三浦晶子
木原和子					

≪昭和61年度≫ 転退職者

波多野一昭	鈴木一秀	渡辺千秋	荻原乙美	津田令子	三宅弘美
田中由美	田中淳一	右高　悟	高木武子		

≪昭和60年度≫ 転退職者

右高徳夫	前田純二	永野　進	右高秀美	川越房子	加藤英修
村井俊美	林　範江	杉浦哲男	金城信一		

学　校　要　覧

―校章の由来―

昭和23年４月、春日井市立東部中学校分離にともない春日井市立中部中学校と改称し、同時に校章を制定した。

校章の図案は、ＰＴＡ・職員等より公募、応募作品の中より採用した。

本校が100万年も発展存続の一途をたどるようにと、象形文字の100万をデザインの基とし、春日井の「井」、市章の「サクラ」、中部中学校の「中」を組み合わせてつくられている。

校歌

ここ春日井のみんなみに
高くそびゆる学舎は
自治と文化をめざしつつ
誉れの桜　身につけて
鍛うわれらの中部校

流れもつきぬ庄内の
瀬の音さやけし朝夕に
窓に明るき友の顔
久遠の光り　仰ぎつつ
励むわれらの中部校

伊吹山頂遠く雲晴れて
光りは満つる野に街に
ああ青春の　若桜
知性豊かに　健康を
讃うわれらの中部校

学校沿革の概要

昭22.	4	春日井市立東部中学校として開校
昭23.	4	東部中学校の分離に伴い校名を中部中学校と改称
昭24.	10	木造校舎改築竣工（現在地に総合）
昭25.	10	校歌制定
昭26.	12	県教委指定「特別教育活動」研究発表会
昭28.	1	市教委指定「図書館教育」研究発表会
〃	12	講堂竣工
昭23.	2	東海三県学校図書館コンクール優良校受賞
昭30.	12	愛日・市教委指定「特活・放送教育」研究発表会
昭32.	8	軟式野球部県大会出場
昭33.	2	東海三県学校図書館コンクール優良校受賞
昭34.	6	鉄筋校舎第1期工事竣工
〃	9	伊勢湾台風襲来，旧校舎大破
〃	12	鉄筋校舎第2期工事竣工
昭35.	8	体操男子県大会出場
昭37.	3	鉄筋校舎第3期工事竣工
〃	4	特殊学級設置
昭38.	3	鉄筋校舎第4期工事竣工
〃	8	プール竣工
〃	9	県学生科学賞作品展最優秀賞受賞
〃	12	県教委・市教委指定「特殊教育」研究発表会
昭40.	4	創意工夫で科学技術庁長官賞受賞
〃	9	県学生科学賞作品展最優秀賞受賞
昭42.	6	運動場400Mトラック工事完成
〃	7	全国放送陸上競技大会3種競技日本一（清水鏡子）
〃	11	県学生科学賞作品展最優秀賞受賞
昭43.	4	創意工夫で科学技術庁長官賞受賞

昭 43. 9　県学生科学賞作品展最優秀賞受賞

〃　12　ＦＢＣ県優良賞受賞

昭 44. 1　技術室竣工

〃　3　学校基本調査で文部大臣賞受賞

〃　9　県学生科学賞作品展最優秀賞受賞

昭 45. 9　県学生科学賞作品展最優秀賞受賞

昭 46. 9　県学生科学賞作品展最優秀賞受賞

昭 47. 1　日本学生科学賞・第３等入賞

〃　3　春日井市立知多中学校が本校より分離，独立

〃　10　県教委・市教委指定「特殊教育」研究発表会

昭 48. 3　体育館竣工

昭 49. 8　県陸上競技大会総合優勝，全国大会３名出場（梅本，西尾，三上）

〃　12　ＦＢＣ「モデル花だん設計図」五社賞受賞

昭 50. 6　ＦＢＣ県大賞・中部七県一市大賞・文部大臣奨励賞受賞

〃　11　「記念樹の森」完成

昭 51. 5　県環境緑化コンクール優良賞受賞

〃　6　ＦＢＣ県大賞

昭 52. 4　全日本学校環境緑化コンクール特選
文部大臣賞，農林大臣賞，ＮＨＫ会長賞受賞

〃　6　ＦＢＣ'76 年，春秋花だん，名誉大賞第 33 号校に認定，副賞として，内閣総理大臣賞受賞

昭 53. 3　学校賞制定

昭 54. 3　春日井市立柏原中学校が本校より分離，独立

〃　8　全日本陸上競技大会，女子 800 Ｍ４位入賞（妻鹿久美子）

昭 55. 8　全日本通信陸上競技大会，男子 800 ＭＲ優勝（山内，浅井，佐高，小泉）

〃　〃　県大会　体操男・ハンド女優勝，陸上男・テニス女３位

〃　〃　東海大会　ハンド女優勝，全国大会出場

昭 56. 8　県大会　ハンド女優勝，ハンド男・体操男３位

昭 56.　8　　東海大会　ハンド女優勝，全国大会出場

〃　11　　全日本よい歯の学校賞受賞

昭 57.　5　　中部中地健連設立

〃　8　　県大会　体操男２位

〃　〃　　吹奏楽コンクール県大会　金賞受賞

昭 58.　7　　県大会　ハンド女３位

昭 59. 11　　県学生科学賞作品展優秀賞受賞

昭 60.　8　　県大会　ハンド女・新体操男３位

〃　〃　　全国大会　陸上走高跳出場（石田智成）

〃　11　　県学生科学賞作品展最優秀賞受賞

昭 61.　8　　県大会　ハンド男・新体操男３位

〃　〃　　第 21 回 全国バズ学習研究集会で「教育態勢づくり」を発表

〃　11　　県学生科学賞作品展最優秀賞受賞

昭 62.　7　　県大会　ハンド男優勝，ハンド女３位，新体操女５位

〃　8　　東海大会　ハンド男優勝，新体操女５位

〃　〃　　吹奏楽コンクール県大会　金賞受賞

〃　〃　　全国大会　ハンド男準優勝，テニス男個人出場（荒川・正治組）

〃　9　　吹奏楽コンクール東海大会　金賞受賞

〃　11　　第 22 回 全国バズ学習研究集会６名参加

昭 63.　1　　県アンサンブルコンテスト　クラリネット四重奏金賞受賞

〃　〃　　武道場竣工

〃　8　　県大会　ハンド男準優勝

〃　〃　　東海大会　ハンド男準優勝

〃　〃　　吹奏楽コンクール県大会　金賞受賞

〃　9　　吹奏楽コンクール東海大会　銀賞受賞

〃　10　　第23回全国バズ学習研究大会を開催

1. 教育目標

(1) 本校の教育目標

ア. 校　訓

○健康明朗	○知性錬磨	○協力奉仕

イ. 具体化のねらい

○ひたむきな心で
- たくましく生きぬく力を身につけよう。
- 自ら学び、互いに磨き合い、高め合おう。
- よく働き、進んで協力奉仕に努めよう。

——○そして、心豊かな中学生になろう。

(2) 経営方針

ア. 教師相互の信頼と協力による全校体制のもと、生徒にとってうるおいと喜びのある学校の実現を期する。

イ. 充実した学校生活の中で師弟同行、実践力のある生徒の育成に努める。

ウ. 一人ひとりの生徒理解に努め、生徒に自己実現の場を与えるとともに、生徒指導の充実徹底を期する。

エ. 教師としての使命感に燃え、常に研修に励み指導力の向上に努める。

(3) 本年度の重点努力目標

ア. 学習内容の精選と指導方法の改善に努め、参加度を高める授業を展開する。

イ. 反復練習と適切な評価により、基礎的・基本的事項の習熟を図るとともに思考力の伸長に努める。

ウ. 道徳の時間を通して道徳的実践力を養い、あらゆる教科領域の中で道徳的実践に努める。

エ. 基本的生活習慣を育て、自主的な生活態度を確立させる。

オ. 思いやりの心を育て、問題行動の早期発見・いじめの根絶に努める。

カ. 特別活動を重視し、生徒の自主的・実践的な活動の助長に努める。

キ. 体育・クラブ活動等を通して、たくましい体と、強固な意志を鍛え、個性の伸長・友情・協力の態度を養う。

ク. 学校裁量の時間や、３年選択教科の指導について創意工夫する。

ケ. 特殊学級の経営を充実し、特に情緒不安定な生徒に対して適切な指導・助言を行う。

コ. 学校緑化活動をはじめ勤労体験を重視し、生物の愛育・協力・奉仕の精神を培う。

サ. 校内現職教育の充実をはかり、指導力の向上に努める。

シ. ＬＬ教室をはじめ特別教室の管理運営の適正化をはかり、教育機器を効果的に活用する。

ス. ＰＴＡ・地健連等との連携を密にし、生徒の健全育成・非行防止の指導体制を確立する。

2. 学校の組織

(1) 学級組織

・普通学級

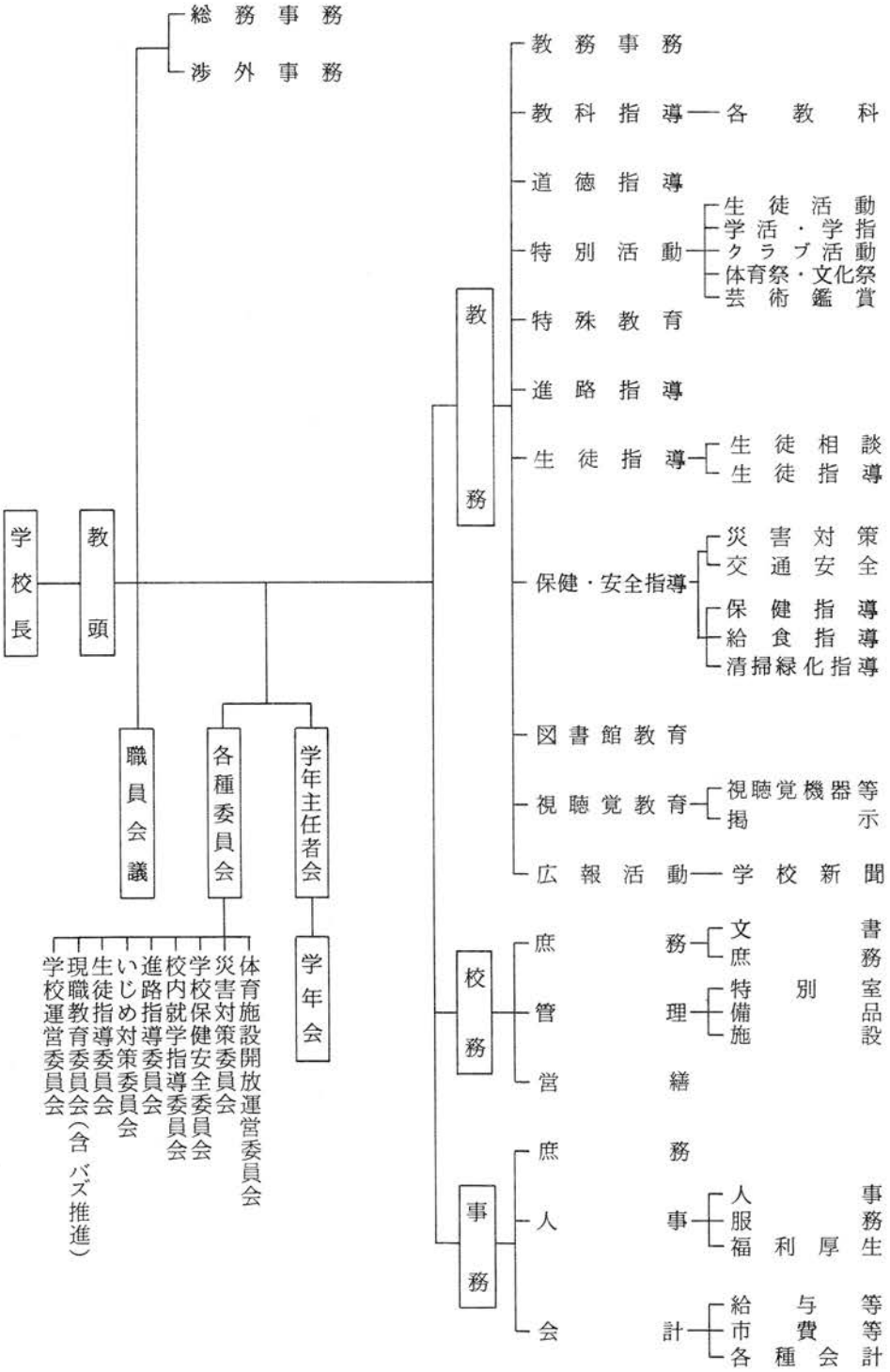
学年	組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計
1年	担任	稲垣	加藤美	岸	高津	小林真	山本	中田	野口	西村	小林千	伊藤直	藤城		
	男	23	23	23	23	23	22	23	23	23	23	22	23		274
	女	22	22	22	21	21	22	21	21	21	21	21	21		256
	計	45	45	45	44	44	44	44	44	44	44	43	44		530
2年	担任	本田	毛利	竹内	舟橋	片山	石黒治	川本	市原	居波	鈴木直	長尾	後藤		
	男	23	22	22	22	23	23	23	23	23	23	22	22		271
	女	20	20	20	20	20	20	20	19	19	20	20	20		239
	計	43	42	42	42	43	43	43	42	42	43	42	42		510
3年	担任	川越	竹田	藤田滋	桜井	山内	森	押谷	中山	吉田真	沢田	立島	石黒照	加藤武	
	男	21	22	22	23	23	22	23	22	23	22	23	22	22	290
	女	21	21	21	21	21	22	21	21	21	22	21	22	22	277
	計	42	43	43	44	44	44	44	43	44	44	43	44	44	567
															1,607

・特殊学級

学年	組	1	2	合 計
1年	担 任	小 森	渡 辺	
	男	2	0	2
	女	1	0	1
	計	3	0	3
2年	男	0	4	4
	女	0	0	0
	計	0	4	4
3年	男	1	2	3
	女	0	1	1
	計	1	3	4
				11

全 校 総 数		
学級数		39
生徒数	男	843
	女	775
	計	1,618

(2) 学校運営機構


学校長
教頭
総務事務
渉外事務
職員会議
各種委員会
学年主任者会
学年会
学校運営委員会
現職教育委員会（含バズ推進）
生徒指導委員会
いじめ対策委員会
進路指導委員会
校内就学指導委員会
学校保健安全委員会
災害対策委員会
体育施設開放運営委員会
教務
教務事務
教科指導
各教科
道徳指導
特別活動
生徒活動
学活・学指
クラブ活動
体育祭・文化祭
芸術鑑賞
特殊教育
進路指導
生徒指導
生徒相談
生徒指導
保健・安全指導
災害対策
交通安全
保健指導
給食指導
清掃緑化指導
図書館教育
視聴覚教育
視聴覚機器等
掲示
広報活動
学校新聞
校務
庶務
文書
庶務
管理
特別室
備品
施設
営繕
事務
庶務
人事
人事
服務
福利厚生
会計
給与等
市費等
各種会計

(3) 教職員表

職名	氏　名	性別	担当教科等（時間数）	担当学級
校長	荻原　克巳	男		
教頭	阿部　吉一	男		
教諭	寺井　正輝	男	理・特(7)	
〃	鈴木　収	男	社(13)	
〃	高木　昭子	女	技家(23)	3年
〃	石黒　治子	女	美(22)	2の6
〃	武山　春雄	男	理(17)	3年
〃	稲垣　久義	男	英(21)	1の1
〃	吉田　英雄	男	体(17)	3年
〃	小原　澄子	女	英(19)	1年
〃	後藤　文子	女	数(19)	2の12
〃	桑原　進一	男	英(19)	2年
〃	高島　顕	男	特・美(25)	実務
〃	林　薫	男	数(19)	1年
〃	野口　博昭	男	体(22)	1の8
養護教諭	西田真寿美	女		
教諭	久田　律子	女	音(19)	3年
〃	小森　好治	男	特・体(24)	実務1
〃	安藤　研彦	男	体(19)	1年
〃	松本　幸子	女	数(21)	3年
〃	舟橋　祥子	女	体(22)	2の4
〃	藤城　吉雄	男	美(22)	1の12
〃	加藤　武文	男	社(21)	3の13
〃	西村　典子	女	国(23)	1の9
〃	居波　丈義	男	体(21)	2の9
〃	藤田　滋	男	社(21)	3の3
〃	市原みどり	女	国(23)	2の8
〃	長尾　智	男	理(21)	2の11
〃	澤田　由道	男	数・特(21)	3の10
〃	立島　雅代	女	国・特(21)	3の11
〃	伊藤　彰	男	数(19)	1年
〃	児玉　誠	男	音・特(21)	2年
〃	鈴木　直子	女	技家(21)	2の10

職名	氏　名	性別	担当教科等（時間数）	担当学級
教諭	久保　達哉	男	社・特(21)	1年
〃	伊藤　富男	男	数(17)	2年
〃	中山喜久子	女	国・特(21)	3の8
〃	加藤美紀子	女	国(23)	1の2
〃	中田　博之	男	理(21)	1の7
〃	毛利　公	男	社(23)	2の2
〃	石黒　照人	男	理(21)	3の12
〃	片山　豊	男	理(21)	2の5
〃	小林　千益	男	社・特(21)	1の10
〃	吉田　真	男	理・特(21)	3の9
〃	桜井　雅弘	男	数・特(21)	3の4
〃	山本　義則	男	国(23)	1の6
〃	竹田　幸代	女	国・特(21)	3の2
〃	川越　慎一	男	英(21)	3の1
〃	川本　芳久	男	社・特(21)	2の7
〃	押谷　政紀	男	技家(22)	3の7
〃	伊藤　直美	女	音・技家(19)	1の11
〃	本田　直樹	男	国(23)	2の1
〃	高津　卓史	男	社(22)	1の4
〃	岸　宏行	男	理(21)	1の3
〃	小林　真	男	技家・特(20)	1の5
〃	森　真一郎	男	美(23)	3の6
〃	山内　良仁	男	数・特(21)	3の5
〃	藤田二三代	女	体(20)	3年
〃	林　真樹	女	英(19)	2年
〃	渡辺　敦子	女	特・国(25)	実務2
〃	久木田まゆみ	女	英(22)	3年
〃	溥廼　和	女		
講師(産休補充)	蛯名　幹史	男	音(20)	1年
〃	稲垣　淳代	女	英(19)	1年
教諭	竹内　正夫	男	技家体特(20)	2の3
主事	中村　通郎	男		
〃	平野和歌江	女		
市職	長谷川啓子	女		

3. 教育計画

(1) 教育課程

ア. 授業時数配当表

・普通学級

区分		第1学年	第2学年	第3学年
必修教科	国語	175 (5)	140 (4)	140 (4)
	社会	140 (4)	140 (4)	105 (3)
	数学	105 (3)	140 (4)	140 (4)
	理科	105 (3)	105 (3)	140 (4)
	音楽	70 (2)	70 (2)	35 (1)
	美術	70 (2)	70 (2)	35 (1)
	保健・体育	105 (3)	105 (3)	105 (3)
	技術・家庭	70 (2)	70 (2)	105 (3)
選択教科	外国語（英語）	105 (3)	105 (3)	105 (3) 川越 久木田 (567名)
	音楽			35 (1) 蛯名 (44名) 児玉 (43名) 久田 (44名)
	美術			35 (1) 藤城 (44名) 森 (44名) 石黒治 (44名) 高島 (44名)
	保健・体育			35 (1) 野口 (44名) 吉田英 (44名) 舟橋 (44名) 藤田二 (41名)
	技術・家庭			35 (1) 押谷 (43名) 高木 (44名)
道徳		35 (1)	35 (1)	35 (1)
計		980 (28)	980 (28)	980 (28)
特別活動	学級会・学指	35 (1)	35 (1)	35 (1)
	クラブ活動	35 (1)	35 (1)	35 (1)
総授業時数		1,050 (30)	1,050 (30)	1,050 (30)

・特殊学級

区分		特殊学級
生活単元学習		35(1)
作業学習		280(8)
日常生活指導		常時指導
教科指導	国語	105(3)
	社会	35(1)
	数学	105(3)
	理科	35(1)
	音楽	70(2)
	美術	70(2)
	保健・体育	70(2)
	技術・家庭	70(2)
	英語	35(1)
道徳		35(1)
特別活動	クラブ活動	35(1)
	学級の時間	35(1)
養護・訓練		35(1)
合計		1,050(30)

イ. 各教科の指導計画

(ア) 指導の重点目標

・学習内容の精選と指導法の改善に努め、相互作用を生かし、参加度を高める授業を展開する。

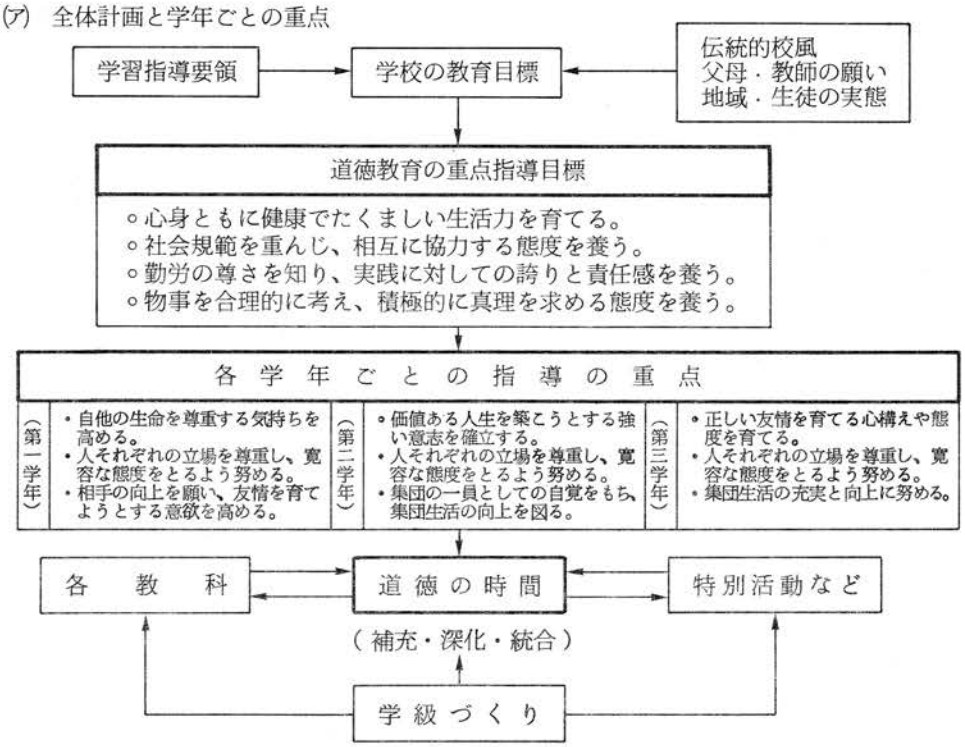
・生徒の達成状況を適切に評価し、生徒一人ひとりに「よくわかる授業」を実践する。

(イ) 対策の概要

国語	・学習過程を大切にし、言語に関する基本的事項と的確な表現力の育成を図る。 ・効果的に話し合いの場を設定することで、授業への参加度を高めると同時に理解の徹底深化を図る。
社会	・社会科の基礎・基本を重視し、個々の相互作用を生かし、生徒の思考力・判断力の伸長を図る。 ・常に社会事象に目を向け、身近な課題を解決しようとする態度を育成する。
数学	・相互活動による参加度の高い生き生きした授業の実践をめざす。 ・適切な評価を行うことにより、わかる授業の実践に努める。
理科	・観察、実験などを通して、相互作用を生かし、科学的思考力を育成する。 ・自然の事物現象についての理解を深め、自然と人間とのかかわりについて認識させる。
音楽	・合唱やリコーダー演奏を通して、個々の能力の伸長を図り、楽しく表現する態度を養う。 ・アンサンブルの指導を通し、相互評価の能力を養う。
美術	・表現や鑑賞の能力を伸ばし造形的な創造活動の喜びを味わわせる。 ・美術を愛する心情を育て豊かな情操を養う。
保健体育	・心身の調和のとれた発達を目指し、体力の向上と強じんな意志の育成を図る。 ・健康・安全で心豊かな生活を営むための能力・態度の育成を図る。 ・相互批正によりお互いの技能の向上に努める態度を養う。
技術家庭	・生活に必要な基礎的知識・技能・技術を習得させ、必要に応じて工夫したり創造したりする能力と実践する態度を養う。
英語	・話し合い活動を授業に生かし、全体の基礎学力の充実を図る。 ・ＬＬ教室、音声教材の効果的な活用により、言語活動能力の向上を図る。

ウ. 道徳の指導計画

(ア) 全体計画と学年ごとの重点



エ．特別活動の指導計画

(ア) 指導の基本方針

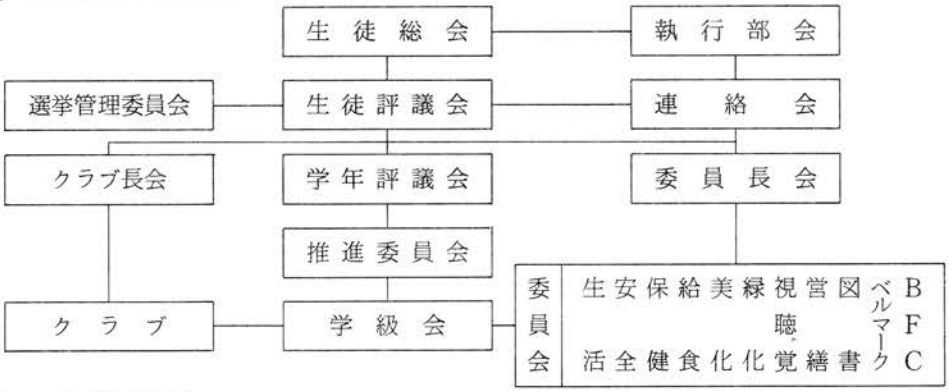
・のぞましい人間関係の育成に努める。

・楽しく規律正しい学校生活の確立に努める。

・委員会活動、学級会活動、クラブ活動を活発にし、自主的実践活動を助長する。

・委員会活動、クラブ活動をとおし、健全な趣味、豊かな教養を養い個性の伸長をはかる。

(イ) 生徒活動の運営組織



(ウ) クラブ活動状況

クラブ名	担当者名	人数	クラブ名	担当者名	人数	クラブ名	担当者名	人数
野　球	吉田(英)	90	水泳(女)	小森	32	書　道	中山・市原	28
剣道(男)	片山	49	陸上(男)	安藤・高津	62	社会科	久保	11
〃 (女)	西村・森	40	〃 (女)	竹内・石黒(鶴)	51	囲碁将棋	石黒(照)	20
バスケットボール(男)	中田	57	ハンドボール(男)	川越	41	文　芸	桑原	10
〃 (女)	鈴木(収)・毛利	41	〃 (女)	岸	22	写　真	寺井	23
テニス(男)	稲垣・吉田(真)	95	ソフトボール(女)	伊藤(富)・桜井	29	演　劇	加藤(美) 渡辺・小原	19
〃 (女)	川本・松本	80	サッカー(男)	小林(貞)	79	バトン	立島・鈴木(直)	26
バレーボール(男)	藤田(滋)・伊藤(彰)	39	柔道(男)	小林(千)	27	美　術	藤城・石黒(治)	28
〃 (女)	藤田(二)	46	バドミントン	加藤(武)・蛯名	66	園芸技術	武山	5
体操(男)	居波	29	英　語	久木田・林(貞)	17	家庭科	高木(昭) 後藤・西田	29
〃 (女)	山本・舟橋	41	理　科	長尾(智)・阿部	26	造　形	高島	17
卓球(男)	山内	52	吹奏楽	林(薫)・沢田	116	作　画	本田	29
〃 (女)	押谷・竹田	11	コーラス	伊藤(直)・久田	19			
水泳(男)	野口	30	ギター	児玉	35			

オ．週の計画および日課

職員の勤務	A タイ (50分)	B タイ (45分)	月	火	水	木	金	土
(月～土)	(8:10 予鈴)	(8:10 予鈴)						
勤務開始	8:15	8:15						
	8:20	8:20	集会	学裁				
	8:30	8:30		短学活				
	8:40	8:40						
	8:45	8:45	学裁	第1校時				
	9:35	9:30						
	9:45	9:40	第2校時					
	10:35	10:25						
休息	(10:45 予鈴)	(10:35 予鈴)						
	10:50	10:40	第3校時					
	11:40	11:25						
	11:50	11:35	第4校時					学裁A
土勤務終了	12:15							課外クラブ
	12:40	12:20	15分(準備)					
	12:55	12:35	20分(会食) 給食					
	13:15	12:55	5分(整理)					
	13:20	13:00	清掃					
	13:35	13:15						
休憩	(13:50 予鈴)	(13:30 予鈴)						
	13:55	13:35	第5校時			学裁1年	第5校時	
	14:45	14:20						
	14:55	14:30	第6校時	学裁2年	クラブ	短学活	学裁3年	
	15:45	15:15	学裁			職員会議 現職教育	学裁	
	15:55	15:25	短学活				短学活	
	16:10	15:40	学年部会 教科部会					
	16:15	16:15						
休憩								
	16:45	16:45	課外クラブ					
休息								
勤務終了	17:00	17:00						

・原則として、教科部会・学年部会は月曜日、現職教育・職員会議は木曜日にもつ。

・土曜日の固定学裁Aは、委員会活動、生徒評議会、緑化・環境美化活動(勤労体験学習)等を行う。

・クラブ下校　4. 5月……18:00　6. 7月……18:30　9. 3月……17:30
10. 2月……17:00　11. 12. 1月……16:30

カ．学校行事年間計画

( )内数字は学年

月	学校行事						その他の行事	
	儀式的	学芸的	体育的	旅行的 (特殊業務)	保健・安全的	勤労生産的	生徒会	備考
4	着任式 入学式 始業式 離任式				身体測定 心電図 } 検査 貧　血 } 内科検診(1) ツ反、ＢＣＧ	清掃・緑化 活動 大掃除	生徒会総会	知能・学力検査 通学班会議 学級写真 家庭訪問
5			体力診断 運動能力 テスト	宿泊学習(1) 野外学習(2)	内科検診 （2.3） 避難訓練 胸部Ｘ線	清掃・緑化 活動 大掃除	球技大会 （1.3）	ＰＴＡ総会 学校訪問
6				修学旅行(3)	眼科検診 歯の検査		球技大会(2)	通学班会議
7	終業式	市文化 連盟発 表会	市中学校 体育大会		体育的クラブ 選手内科検診	清掃・緑化 除草作業 大掃除	選手激励会	通学班会議 個人懇談会 教育講演会
8			水泳指導					
9	始業式	夏休み 作品展	水泳大会 体育大会		風水害対策指 導	清掃・緑化 活動 除草作業 大掃除	大会報告会	
10			新人戦	遠足	インフルエンザ 予防接種		生徒会役員 選挙	私学説明会(3) 教育講演会 全国バズ大会
11		芸術鑑 賞 文化祭			インフルエンザ 予防接種 避難訓練		生徒会総会	私立･公立説明会
12	終業式				尿検査	清掃・緑化 活動 大掃除		個人懇談会 進学委員会(3)
1	始業式					清掃・緑化 活動 大掃除		個人懇談会(3)
2		合唱コ ンクール	長距離 継走大会		風疹予防接種 （2女） 学校保健委員 会			進学委員会(3) 新１年説明会
3	卒業式 修了式					清掃・緑化 活動 大掃除 母校整備	卒業生を送 る会 生徒会役員 選挙	皆勤賞授与式 謝恩会

4. 現職教育

(1) 本校の研究歴

昭和56・57年度	各教科に即した観点別到達度評価の実際
昭和58・59年度	「形成的評価結果をフィードバックさせた授業の展開」
	「所属集団の中における存在感の育成」
昭和60・61年度	「相互作用を生かし、参加度を高める学習指導」
昭和62年度	「相互作用を生かし、参加度を高める学習指導」

―― 課題と評価の研究を通して ――

(2) 本年度の方針

ア. 生徒が意欲的に学習にとりくめるような学級集団づくりをめざす。

イ. 積極的に学級間の交流をはかり、学年または、学校全体を高める方法を確立する。

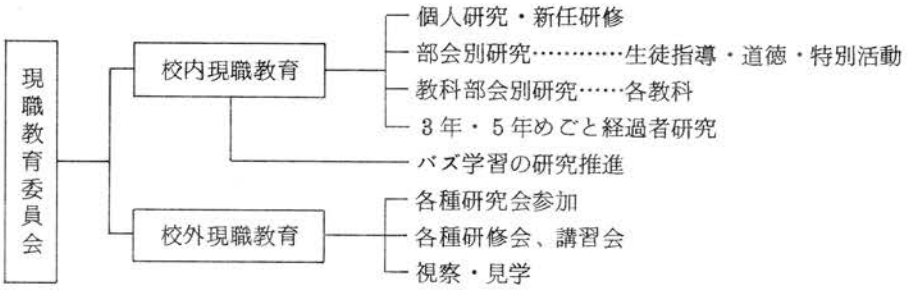
ウ. 相互活動を活発にする方法を工夫し、授業への参加度を高めるとともに、教師集団の指導技術の向上をはかる。

エ. 課題を工夫し、適切な評価方法を研究する。

オ. 生徒理解に努め、人間的なふれあいのなかで、心豊かな実践力のある生徒の育成を図る。

カ. 短学活の充実をはかるとともに、特別活動を通して、生徒の自主的・実践的な活動の伸長を図る。

(3) 組　織



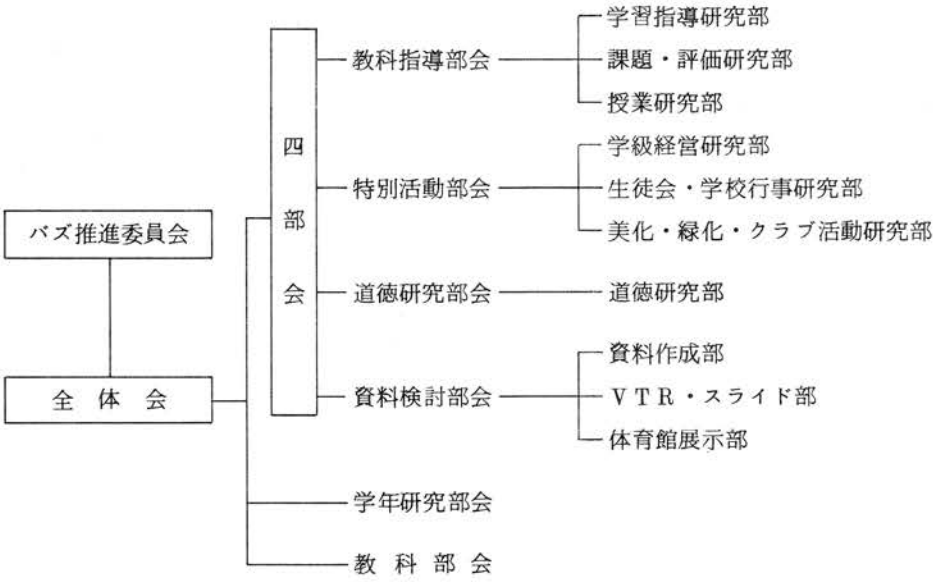
(4) 研究課題

・指導法研究　「相互作用を生かし、参加度を高める学習指導」

―― 課題と評価の研究を通して ――

(5) 実施計画

○現職教育委員会	―― 随時開催
○学年別研究会（学年部会）	―― 毎月第2・3月曜（定例）・随時開催
○教　科　部　会	―― 毎月第4月曜（定例）・随時開催
○職員会議、校内現職教育	―― 毎月第1・3木曜（定例）・随時開催

	具　体　的　計　画
第 1 学 期	○ 具体的実施計画の作成 ○ 教科、道徳、特活等の年間計画の作成 ○ 各教科の授業研究（教科部会） ○ 学年別研究会（道徳） ○ 学年別研究会（学級会、学級指導） ○ 事例研究会（登校拒否）
第 2 学 期	○ 学級の時間の授業研究 ○ 各教科の授業研究（教科部会） ○ 学年別研究会（学級会、学級指導） ○ 学年別研究会（道徳） ○ 事例研究会（いじめ） ○ ２学期実践のまとめ、分析
第 3 学 期	○ 各教科の授業研究（教科部会） ○ 学年別研究会（学級会、学級指導） ○ 事例研究会（問題行動） ○ 今年度のまとめ、反省、来年度の方針 ○ 研究紀要の発刊

(6) バズ研究推進組織